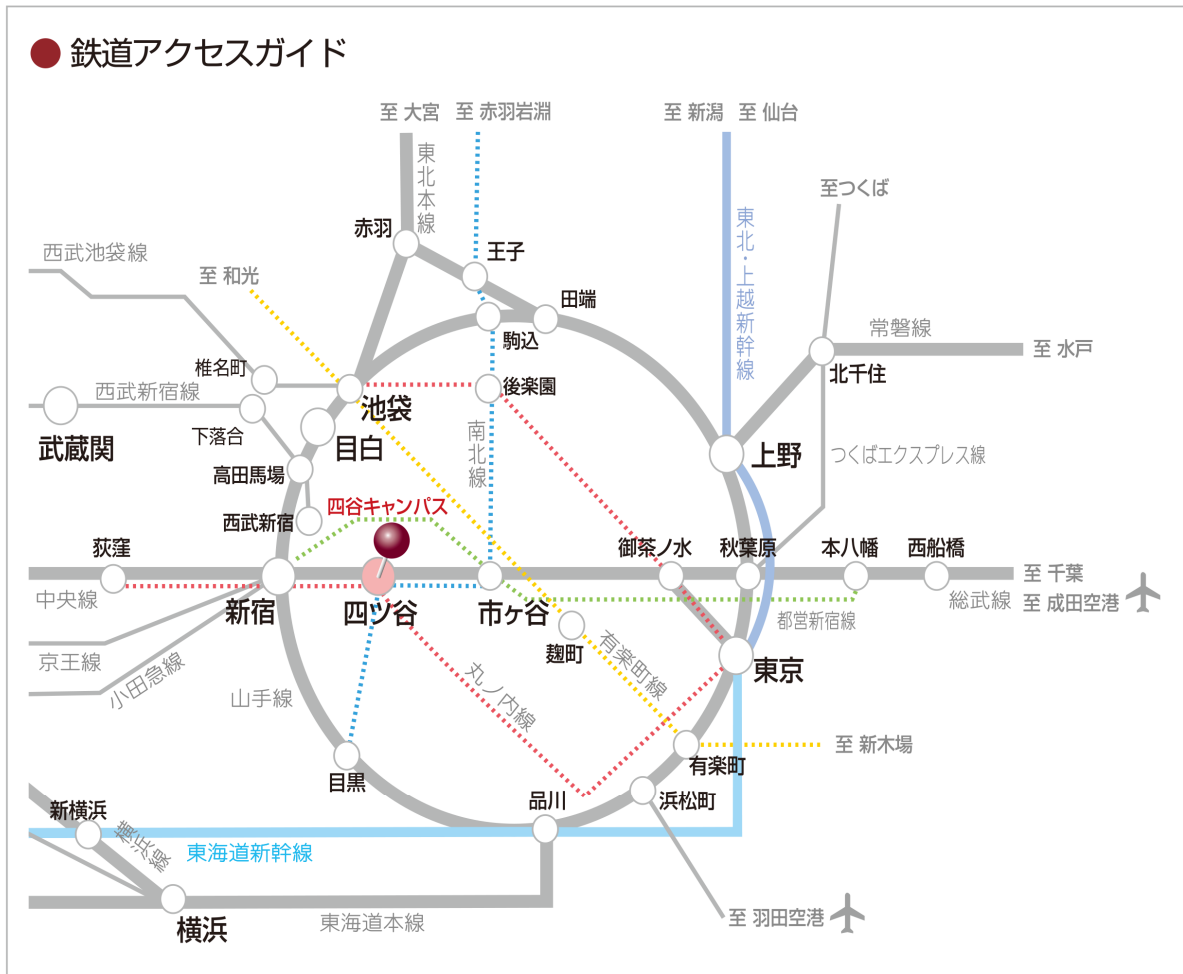


日本社会心理学会
第 64 回大会プログラム

上智大学

2023 年 9 月 7 日 (木)・8 日 (金)

大会会場への交通案内①

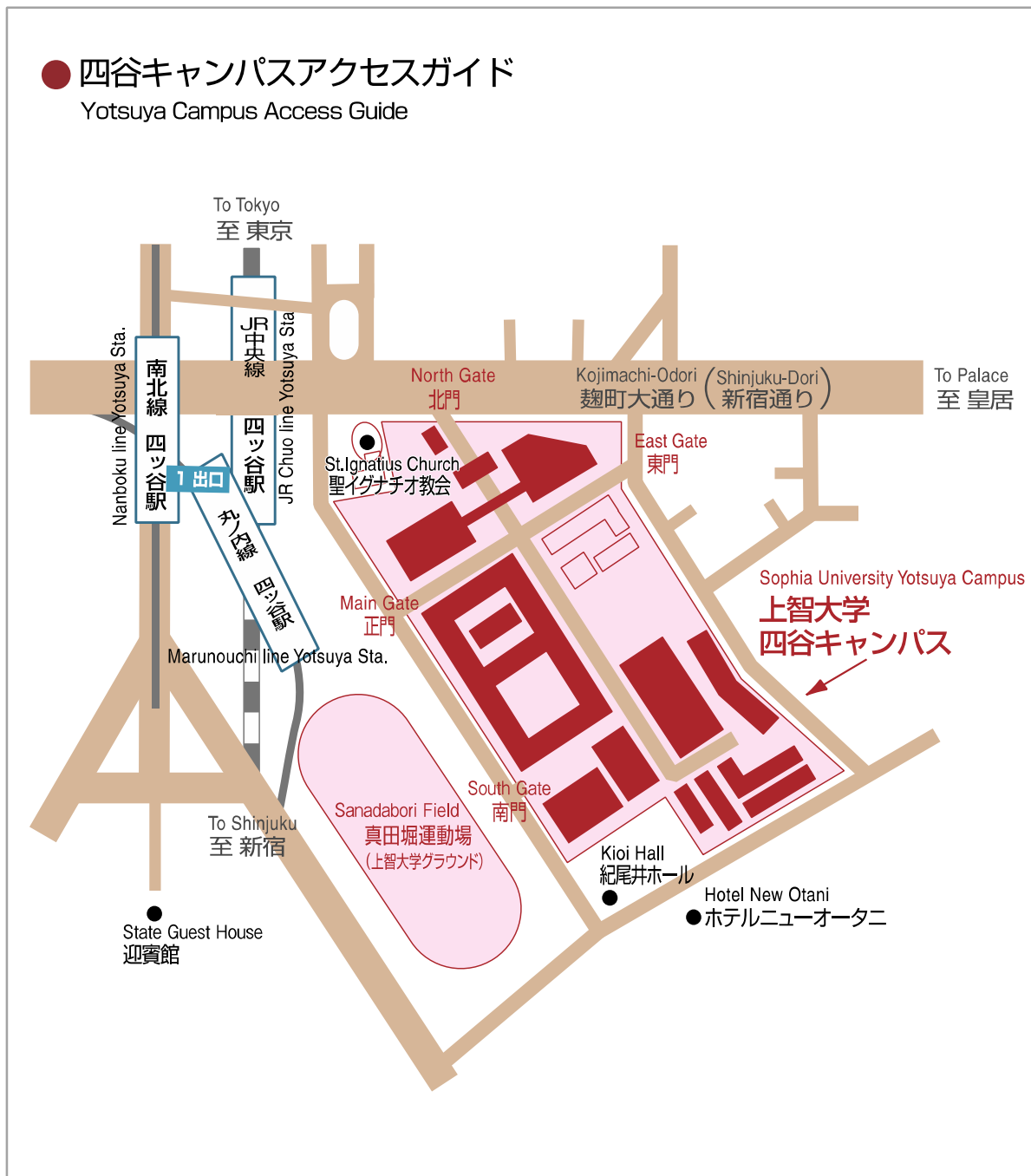


会場：上智大学 四谷キャンパス

(〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1)

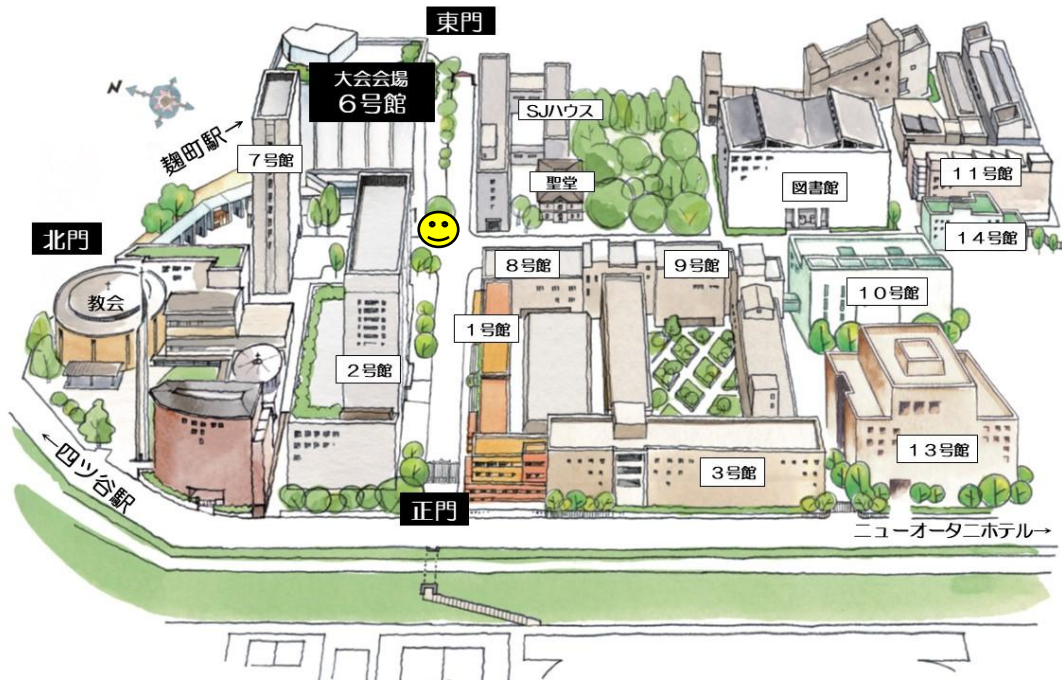
- ・JR 中央線・総武線 四ツ谷駅から徒歩3分
- ・東京メトロ丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅から徒歩3分

大会会場への交通案内②

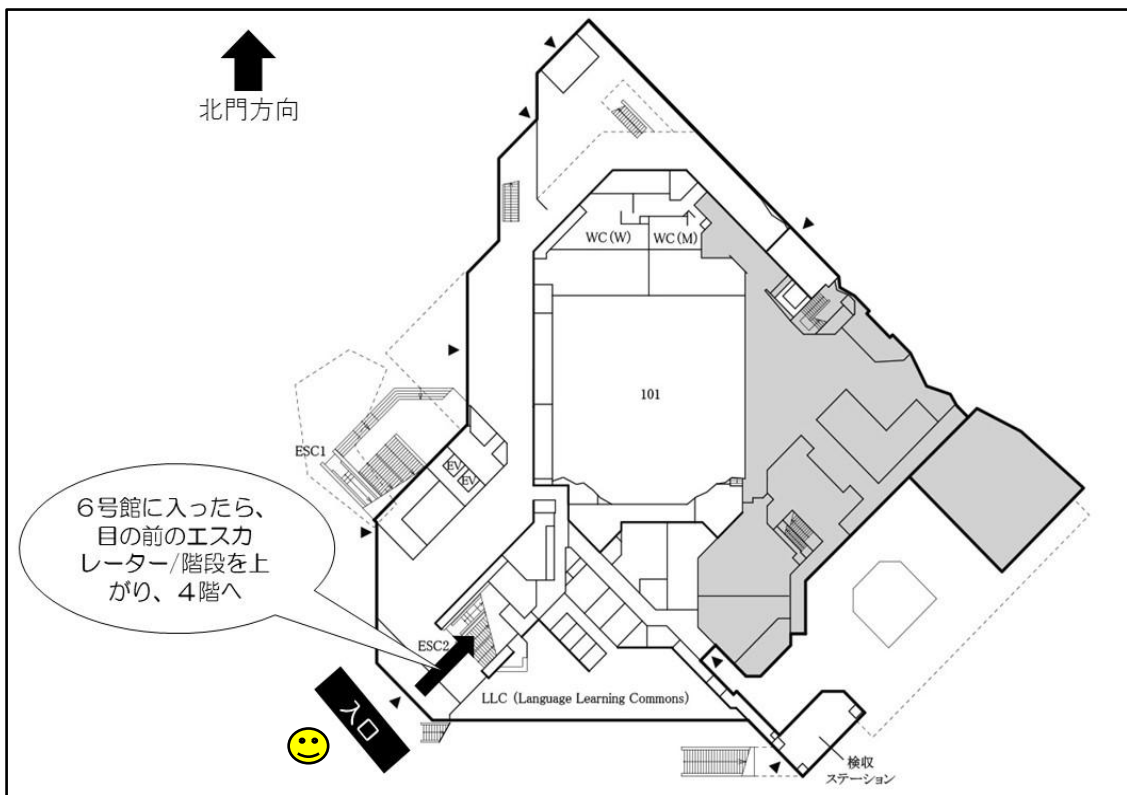


- (1) 大会会場には「正門」からお入りください。「北門」は当日閉鎖されている可能性があります。「四ツ谷駅前交差点」から聖イグナチオ教会横の土手沿いを進んでいただくと、左手に正門がございます。そちらからお入りください。

大会会場のご案内

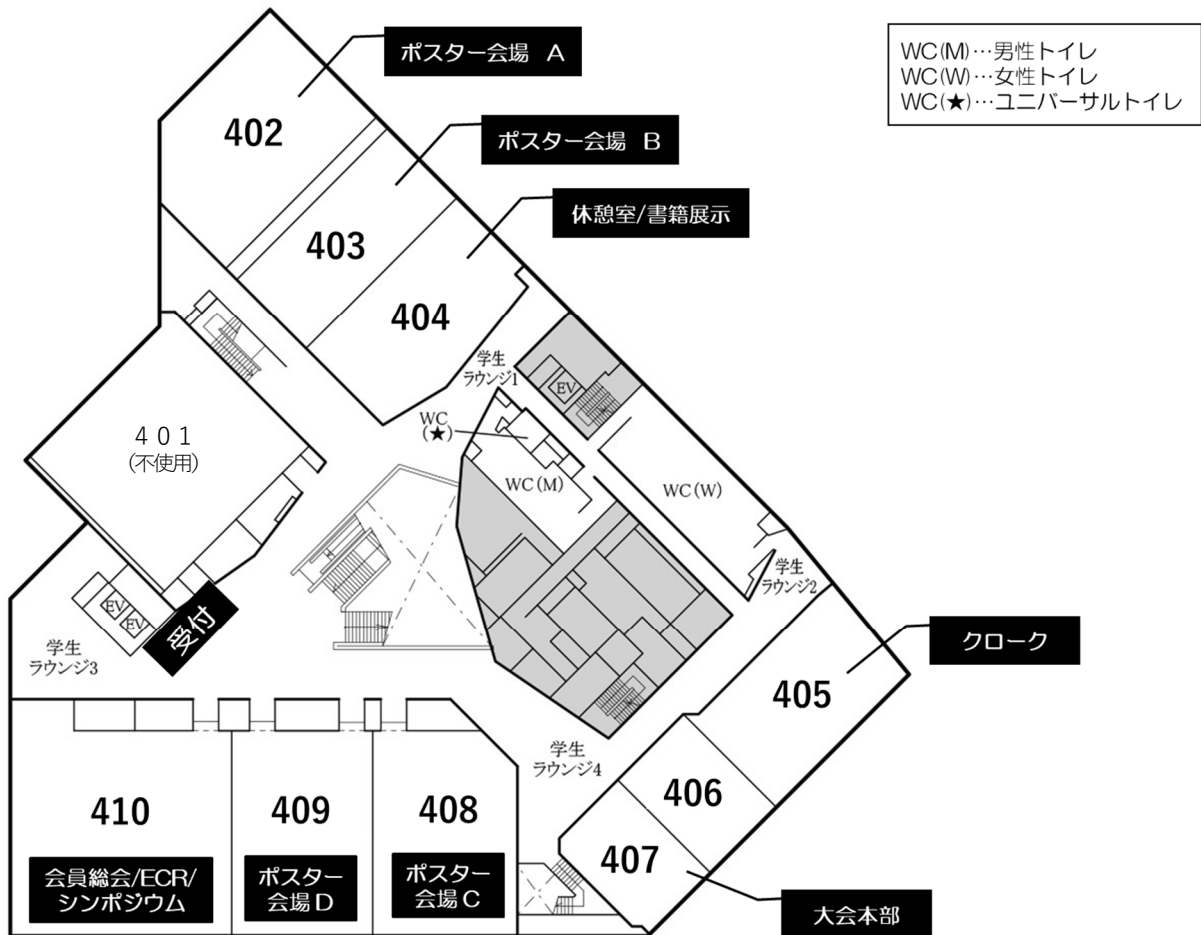


- (2) 大会は全て 6号館4階で行われます。6号館4階は 17階建ての白い建物（通称ソフィアタワー）です。6号館入り口は スマイルマーク付近にあります。



- (3) 6号館は入り口が多数あります。入口によっては、上階へ行くエスカレーター / 階段にたどり着くことが極めて困難です。必ず 上記スマイルマークの入口より入館してください。

大会会場（6号館4階）のご案内



- | | |
|---------|-------------------|
| 受付 | 6号館4階ホール |
| クローク | 405教室 |
| ポスター発表 | 402・403・408・409教室 |
| 口頭発表・WS | オンライン |
| シンポジウム | 410教室 |
| 総会 | 410教室 |
| 休憩室 | 404教室(茶菓子提供は7日のみ) |
| 書籍等展示 | 404教室(7日のみ) |

※インターネットは eduroam をご利用いただけます。ご所属機関で eduroam のアカウントをお持ちでない場合、インターネットは利用できません。ご自身でモバイル wifi 等をご持参ください。

大会に関するご案内

1. 受付

受付は、両日ともに9時00分から6号館4階にて行います。予約参加の方は、プログラムに同封してある名札を必ずご持参いただき、受付付近で大会用ネームホルダーを受け取っていただければ、受付の必要はありません(名札を紛失された方は受付でその旨お申し出ください)。当日参加の方は、Web参加申込システムから申込を行い、クレジットカード決済で参加費をお支払いください。記入されていない名札を受付付近にご用意いたしますので、ご自身で名札に氏名およびご所属を記入してください。大会会場内では、名札を必ず着用してください。当日参加の名誉会員の方は受付にお越しください。

2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	9,000円
	正会員(院生)	5,000円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	2,000円
	臨時会員	9,000円
	臨時会員(高校生以下)	無料
	名誉会員	無料
②論文集購入費		6,000円

※ 大会当日、現地での論文集の販売はございません。冊子版の購入を希望される方は、大会ホームページに記載されている手続きに沿ってお申し込みください。

※ 納入いただいた大会参加費等の諸費用は返金いたしません。予めご了承ください。

3. 総会・表彰式

1日目の12時15分より6号館4階410教室で開催し、オンラインライブ配信もいたします。

4. 研究発表・ワークショップ

ポスター発表は、大会1日目(9/7木)に6号館4階402, 403, 408, 409教室で行います。オンライン配信はありません。

口頭発表とワークショップは、大会2日目にオンライン(Zoom)で行います。対面での実施はありません。

大会1日目にECR企画を行います。ライトニングトークを6号館4階410教室で行い、オンラインでライブ配信します。ポスターセッションはポスター発表会場で行います。

なお大会2日目の対面会場では、大会参加者が研究発表やワークショップの内容について議論したり、ネットワーキングを行うための「会員自由集会」を行いますので、どうぞふるってご参加ください。

5. 大会準備委員会企画シンポジウム

大会1日目の16時より6号館4階410教室にて「COVID-19感染禍の社会的影響を考える」を開催します。対面での開催に加え、オンラインでライブ配信を行います。

6. クローク

6号館4階405教室前にクロークの受付を設置します。お預かり時間は、1日目は9時30分から18時00分まで、2日目は9時00分から17時00分までです。必ず当日中閉室時間までにお引き取りください。貴重品やパソコンはお預かりできません。

7. 休憩室・書籍販売・機器展示

大会1日目(9時00分から17時30分)は、休憩室を6号館4階404教室に設置します。同教室に書籍販売・機器展示コーナーも設けます。飲み物と簡単な菓子を提供します。

大会2日目は茶菓提供はありませんが、同教室を発表用ブースとしてご利用いただけます。

8. 昼食・売店等

1日目・2日目ともに、昼食の提供はありません。上智大学付近には、飲食店やコンビニエンスストアが数多く存在します。適宜ご利用ください。

9. 喫煙場所

キャンパス内は、11号館に面した中央図書館の奥の階段を下りたエリアに設置された喫煙スペース以外は全面禁煙です。指定場所以外での喫煙はご遠慮ください。

10. 託児サービス

大会期間中、生後57日目から9歳(小学校3年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。時間は、1日目は9時30分から18時00分まで、2日目は9時00分から17時30分を予定しています。場所は申込者に別途お知らせします。詳細は「託児のご案内」ページ、大会Webサイトをご参照ください。なお申し込み受付はすでに終了しました。

11. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを、6号館4階の受付付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。また、コミュニケーション・ボードには、研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

12. ソーシャルメディア利用および著作権保護についてのお願い

ソーシャルメディア (Twitter や Facebook など) などにおいて、第三者が、研究発表の内容を中継・実況・報告等する場合には、たとえ用途が個人用であったとしても、事前に発表者の許可を得てください。また、発表者も、特にそれを抑制したい場合には、ご自身の態度の明示にご協力ください。参加者相互が気分を害することがないように、充分にご配慮ください。

また、発表内容を無断で撮影したり録画することについても、事前に発表者の許可を得てください。特にオンライン発表における録画や撮影については十分にお気を付けください。

13. 無線 LAN 接続について

本学では、eduroam により Wi-Fi 環境を利用できます。eduroam とは、世界中にある eduroam 参加機関でキャンパスの無線 LAN (Wi-Fi) を相互に利用できるサービスです。事前に所属機関で eduroam アカウントをご確認の上ご利用ください。

14. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは上智大学のロゴがプリントされた紫色の T シャツを着用しております。ご用の際はお気軽にお声がけください。

大会本部は、6 号館 4 階 407 教室に設けます。会場外からの緊急のご連絡は、jssp2023.sophia@gmail.com までお願いします。また、Twitter アカウント [@jssp2023](https://twitter.com/jssp2023) も併せてご活用ください。

15. 常任理事会・理事会・編集委員会

常任理事会・理事会・編集委員会については、各連絡用メーリングリストでご案内します。

16. 新型コロナウイルスへの対応

本大会での新型コロナウイルスへの対応は、開催時のガイドラインに従います。詳細は大会ホームページをご覧ください。

発表者へのご案内

1. 口頭発表

受付と発表準備

口頭発表は大会 2 日目にオンラインで行います。発表者はセッション開始 10 分前までに、各自の機器から事前にお伝えした Zoom アドレスにご接続ください。ご接続の際は、各自で「スピーカーとマイクのテスト」を済ませておくようにしてください。座長は開始前に全発表者の接続を確認してください。発表者は座長の指示に従い、各自の機器から画面の共有が可能かどうかなど、発表の準備をお願いします。なお、接続等に関する基本的な作業は、ホストとなっている準備委員会側で担当する予定です。座長には共同ホストの権限を割り振らせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

時間

口頭発表での 1 件あたりの持ち時間は 15 分で、発表時間 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守へのご協力をお願いします。発表中は、座長から以下のとおり合図をします。

1 回目： 10 分経過、 2 回目： 12 分経過(発表終了)、 3 回目： 15 分経過(質疑応答終了)

配布資料

大会サイト上に質疑応答システムを設けます。質疑応答システムではファイルを直接アップロードできませんが、ファイル等へのリンクを記載することで、資料の共有は可能です。その上で、システムを利用した資料の共有およびディスカッションは発表成立の要件とはしませんが、活発なコミュニケーションの機会として積極的にご活用ください。

2. ポスター発表

受付

ポスター発表は大会1日目に対面で行います。発表者は、セッション開始 5 分前までに発表受付にお越し下さい。発表者用の赤リボンをお渡しします。受付は、各セッション開始 20 分前から開始します。

発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載, (b)発表が割り当てられたセッションでの 90 分間のポスター掲示, (c)指定された 45 分間の在席, および (d)質問者との個別討論への参加の 4 件を満たすことで, 公式発表として認められます。当日の発表と討論は, 責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

掲示

ポスターは「A0 サイズ縦長」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので, 所定の位置をご利用ください。パネルに貼り付けるための道具はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」, 「氏名」, 「所属」を明記してください。

発表者は, セッション開始時刻までにポスターを掲示してください。セッション終了後 30 分以内に各自で撤収してください。撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

在席責任時間

1 つのセッションは 90 分です。在席責任時間は, 発表番号(P で始まる 5 桁の数字)が奇数の方は前半の 45 分間, 偶数の方は後半の 45 分間です。

配布資料

大会サイト上に質疑応答システムを設けます。質疑応答システムではファイルを直接アップロードできませんが, ファイル等へのリンクを記載することで, ポスターや資料の共有は可能です。その上で, オンラインでディスカッションしていただくこともできます。システムを利用した資料の共有およびディスカッションは発表成立の要件とはしませんが, 活発なコミュニケーションの機会として積極的にご活用ください。

連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合, 準備委員会の事前の承認を得た上で, 連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合, 公式発表として認められないことがあります。また, 口頭発表において発表の取消があった場合, その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い, 討論や休憩などの時間にあててください。代行や取り消しについては, 早めに準備委員会までご連絡ください。

3. ワークショップ

時間

1 企画全体で 90 分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

機器

ワークショップはオンラインで行ないます。企画者・発表者等のご登壇者は可能な限りセッション開始 10 分前までに、各自の機器から事前にお伝えした Zoom アドレスにご接続ください。ご接続の際は、各自で「スピーカーとマイクのテスト」を済ませておくようにしてください。開始前に、各自の機器から画面の共有が可能かどうかなど、発表の準備をお願いします。なお接続等に関する基本的な作業は、ホストとなっている準備委員会側で担当する予定です。ただ、企画者には共同ホストの権限を割り振らせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

4. ECR (Early Career Researcher) 企画

受付

発表者は、セッション開始 10 分前までに発表受付にお越し下さい。発表者用の赤リボンをお渡しします。受付は、セッション開始 20 分前から開始します。

発表成立の要件

ECR 企画は公式発表ではありませんので、発表成立の要件はありません。発表者は、発表資料や発表内容を別の機会に再利用することができます。

発表方法

90 分間のセッション内において、ライトニングトークおよびポスター掲示をしていただきます。セッション開始時刻より、発表番号の順にライトニングトークをしていただきます。タイミングが来たらお声がけいたしますので、ライトニングトークへのご登壇をお願いします。またライトニングトーク以外の時間については、ポスター会場にて自由にディスカッションをお楽しみください。

ライトニングトークは、6 号館 4 階 410 教室にて指定された時刻から 5 分以内で行っていただきます。その場での質疑応答はございません。スライド等の使用は各自にお任せしますが、資料を投映する場合には HDMI 接続可能な発表用機材を各自でご準備ください。なおライトニングトークの様子はオンラインでライブ配信されます。

また、6号館4階409教室にてポスターを掲示していただきます。ポスターは「A0サイズ縦長」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので、所定の位置をご利用ください。パネルに貼り付けるための道具はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」、「氏名」、「所属」を明記してください。発表者は、セッション開始時刻までにポスターを掲示してください。セッション終了後30分以内に各自で撤収してください。撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

5. ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail (jssp2023.sophia@gmail.com) でお願ひします。大会開催中は大会本部(6号館4階407教室)にお越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡ください。

託児のご案内

大会開催期間(2日間)に、生後57日目から9歳(小学校3年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。ご利用を検討されている方は以下をご確認の上、大会準備委員会(jssp2023.sophia@gmail.com)まで電子メールでお申し込みください。

準備の都合上、お申し込みを 7月12日(水)までをお願いいたします。

1. 託児料

1日につき1,000円

※当日、学会受付にて現金をお支払いください。お釣りのないようお願いいたします。

2. 託児時間

1日目:9時30分～18時00分

2日目:9時00分～17時30分

3. 託児場所

生後57日目～1歳以下のお子様:四谷キャンパス

※同時利用の定員5名までとなります。

2歳以上～9歳(小学校3年生)までのお子様:四谷キャンパス

4. 食事, おむつ替えについて

- 保育スタッフは調乳・授乳はいたしません。
- お食事の際は、保護者様に一度お引き取りいただきますようお願いいたします。
- 常温の飲み物, 軽食(おにぎり, パン, 菓子など)のみお預かり可能です。必要に応じてご用意ください。
- おむつの提供はいたしませんので必要枚数をご持参ください。
- 1歳以下のお子さまの場合は、事前に個別でご相談させていただきます。

5. 託児委託業者

株式会社小学館アカデミー

保育士(有資格者)と保育スタッフ(研修受講者)が対応します。

業者への直接の連絡はできません。必ず大会準備委員会を通してお申し込みください。

大会準備委員会 jssp2023.sophia@gmail.com

6. ご連絡いただきたい内容とご連絡先

1). お申込者氏名(ふりがな):

2). お子様の氏名(ふりがな):

3). PC で受け取り可能なメールアドレス:

※ お申し込み書類等を添付にてお送りいたします。

4). お子様の大会時の年齢(1歳以下の場合は月齢まで):

5). お子様の性別:

6). 託児予定日と時間帯:

7). 緊急連絡先(携帯電話):

8). アレルギーなど注意することがら:

9). ご質問・ご要望などございましたらお知らせください。折り返しご連絡いたします。

7. キャンセル, 変更について

ご利用者様のご都合でキャンセルされる場合, 時期に応じてキャンセル料が発生いたします。

キャンセル・変更がある場合には, 8月29日(火)24:00までに大会準備委員会にご連絡ください。

8. お申し込み締め切り

7月12日(水)

この日までに予定がはっきりしない場合は, その旨を早めにご相談ください。

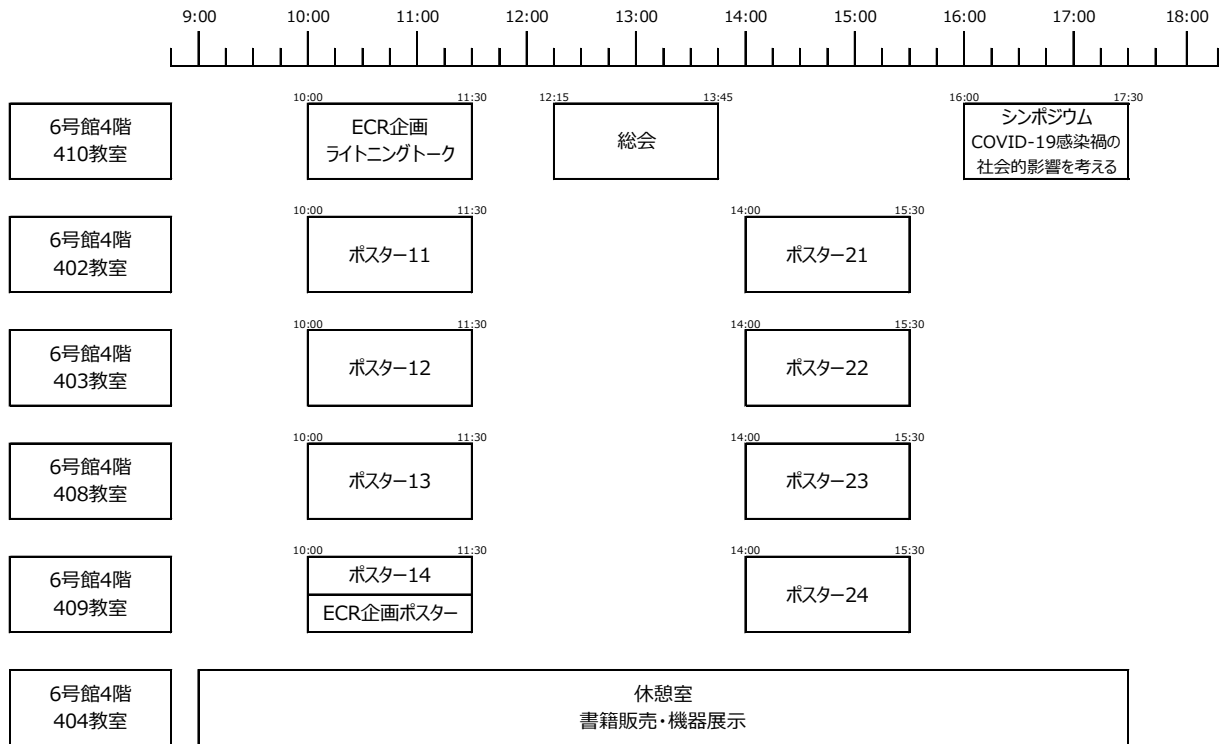
備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金を活用しています。

託児料は, 大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。

今年度の募集は7月12日に締め切りました。

第1日目 9月7日(木) : 対面・オンライン



第2日目 9月8日(金) : オンライン

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
オンラインA		9:30-10:30 口頭01 道徳と信念	10:45-12:00 口頭04 マス・コミュニケーション		13:00-14:00 口頭06 偏見・ステレオタイプ	14:15-15:15 口頭08 身近な人間関係 / 社会的認知	15:30-17:00 WS01 日本の分断はどこにあるのか？			
オンラインB		9:30-10:30 口頭02 ライフスタイル	10:45-11:45 口頭05 集団・集合		13:00-14:00 口頭07 対人相互作用	14:15-15:15 口頭09 対人葛藤 / 社会的認知	15:30-17:00 WS02 ウェブサイトを活用した潜在意識測定の展開と将来性			
オンラインC		9:30-10:30 口頭03 社会的ジレンマ				14:15-15:15 口頭10 社会問題	15:30-17:00 WS03 認知能力と非認知能力の行動遺伝学的分析			
オンラインD							15:30-17:00 WS04 社会心理学は公的部門の政策・施策にどうかかわるか			

COVID-19 感染禍の社会的影響を考える—異なる3つの視点から

企画者： 三浦 麻子 (大阪大学)

司会者： 三浦 麻子 (大阪大学)

話題提供者： 石井 辰典 (日本女子大学)

縄田 健悟 (福岡大学)

森 津太子 (放送大学)

指定討論者： 北村 英哉 (東洋大学)

概要

2020年1月末から2023年5月までWHOによる「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言が継続したCOVID-19感染禍は、感染症という健康・生命への影響のみならず、社会のあり方そのものに大きな影響・変化を与えた、あたかも自然実験のような事象であった。

このシンポジウムでは、ひとまずの緊急事態を脱したとされる今、その処置効果について、三浦が国内外で行われた諸研究を概観した後に、石井氏から「研究」、縄田氏から「働き方」、森氏から「(心理学)教育」という3つの異なる視点から議論する。指定討論を経て、誰もが実験参加者の立場で体験した感染禍の社会心理について、フロア全体で考察を深めたい。

【研究】再現性危機・信頼性革命と呼ばれる動きの中で注目を集めた大規模なマルチラボ研究は、COVID-19パンデミック下での研究にとって大きな恩恵になった。感染禍が心身に与える影響を世界規模で検証できたからである。そして現在でもマルチラボ研究は様々な形で実施されているし、その傾向は今後も続くことが予想される。本報告では、そうしたマルチラボ研究の意義や課題について、経験も交えながら議論する。

【働き方】COVID-19感染禍は、働き方においても多大な影響をもたらした。代表的なものは、テレワーク及びオンライン業務の急速な普及である。これは入社・出張など直接対面で会って仕事を進めるといった従前の形を前提から揺るがし、コミュニケーション、ワークライフバランス、DX等の転換点となった。本報告では、COVID-19感染禍の組織心理・行動に関する研究知見を整理し、アフターコロナの働き方の展望を議論する。

【(心理学)教育】COVID-19感染禍に実施した調査では、心理学教育、なかでも実験実習の開講に苦慮する全国の大学教員の様子が窺えた。このことは通信制の放送大学でも例外ではなく、従来の対面科目に代わるオンラインベースの科目を緊急避難的に立ち上げた。この科目は、その後、常設科目に発展し、対面の科目と併設するに至っている。本報告では、受講生の反応などをもとに、望ましい実験実習の姿について考察する。

日本の分断はどこにあるのか？スマートニュースメディア価値観全国調査から

企画者： 小林 哲郎 (香港城市大学)

司会者： 小林 哲郎 (香港城市大学)

話題提供者： 池田 謙一 (同志社大学)

山脇 岳志 (スマートニュース メディア研究所・京都大学 非会員)

笹原 和俊 (東京工業大学 非会員)

小林 哲郎 (香港城市大学)

指定討論者： 平野 浩 (学習院大学)

概要

政治や宗教、世代、都市と地方など、世界の様々な場所と文脈で分断と対立が報告されている。トラUMP現象で露わとなったアメリカの深い政治的分断、Brexitをめぐって激しく割れたイギリス社会の亀裂などは良く知られている。では、日本でも分断化は生じているのだろうか。メディアと世論の分断をめぐって近年日本でも研究が進んでいるが (e.g., 田中, 2022; 辻, 2021)、アメリカとは政治制度も文化も異なる日本でアメリカと同様の分断が生じているとは限らない。では日本における分断はどこに生じているのだろうか。スマートニュースメディア価値観全国調査は日本における様々な潜在的な分断の軸をあぶりだすために立ち上げられ、アメリカのピュー財団の調査のように日本社会のバロメータを長期的に測定し、公開していくことを目指している。本ワークショップでは2023年に取得された第1回の調査結果の分析を発表し、日本における分断の有無や特徴について議論を深めたい。

ウェブサイトを活用した潜在意識測定の展開と将来性

- 企画者： 潮村 公弘 (フェリス女学院大学)
- 司会者： 潮村 公弘 (フェリス女学院大学)
- 話題提供者： 永吉 希久子 (東京大学 非会員)
松崎 英吾 (日本ブラインドサッカー協会 非会員)
潮村 公弘 (フェリス女学院大学)
- 指定討論者： 稲垣 勉 (京都外国語大学)

概要

IAT (Implicit Association Test) に代表される潜在意識測定は、社会心理学領域の研究者から開発がはじまり、近年では、心理学の多くの研究領域のみならず、社会学・政治学等をはじめとして、広く社会科学領域で展開がなされてきている。

スタンド・アローンのパーソナル・コンピュータ版 (PC 版) からスタートして様々な実行形態 (実行スタイル) を有している IAT 技法であるが、今回のワークショップでは、ウェブサイトを活用した潜在意識測定に焦点をあてて、近年における実際の活用・研究成果について論じることを通して、今後の展開や将来性、また課題について考えていきたい。

登壇者の話題提供については、まず潮村 (フェリス女学院大学) より、ハーバード大学のサイト上で展開されている Project Implicit の Steering-Committee での検討も踏まえながら Project Implicit サイトの近年の動向について紹介するとともに、自身が開発した Explore.Implicit サイトでの公開ページでのデータ収集と非公開の研究用ページでのデータ収集について紹介する。

次に、永吉 (東京大学) から、韓国人に対する潜在的偏見の測定とその表出に関するオンライン調査を用いた研究結果を報告する。調査会社のモニターに対して IAT を用いた潜在的偏見の測定を行い、韓国人に対する比較的高い潜在的偏見がみられることを確認した。さらに、従来型の質問紙調査で測定された顕在的偏見との関連についても報告する。

また、松崎 (日本ブラインドサッカー協会) より、同協会が開発した IAT 測定サイト「UB-Finder」の概要と現場事例を紹介する。同協会では「ブラインドサッカーを通じて視覚障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を実現する」というビジョンのもと、それらを広く社会に訴求する事業を行っている。「UB-Finder」を活用した個人の無意識バイアス測定を入口にした人材育成研修や、研究者向けのデータ収集プラットフォーム利用について紹介する。

上記の話題提供を受けた後、稲垣 (京都外国語大学) から、IAT を活用した自身のデータ収集・研究遂行の経験をもとに指定討論を行う。その後、フロアーの参加者を含めて、ウェブサイトを活用した潜在意識測定の展開と将来性について議論を展開して行きたい。

認知能力と非認知能力の行動遺伝学的分析

－「学力と生きる力のふたご家族調査」による検討－

企画者： 敷島 千鶴 (帝京大学)・川本 哲也 (慶應義塾大学)

司会者： 敷島 千鶴 (帝京大学)

話題提供者： 敷島 千鶴 (帝京大学)

山口 天音 (帝京大学大学院 非会員)

下司 忠大 (立正大学)

川本 哲也 (慶應義塾大学)

指定討論者： 安藤 寿康 (慶應義塾大学 非会員)

概要

行動遺伝学とは、人間の形質の個人差に及ぼす影響を、遺伝と環境という原因論的枠組みから検討する統計学的方法論であり、双生児法では、形質に観察される類似性を、一卵性双生児対と二卵性双生児対の間で比較することにより、形質の背後にある遺伝要因と環境要因の寄与の大きさを量的に推定する。

慶應義塾ふたご行動発達研究センター (KoTReC) は、この双生児法による行動遺伝学研究を遂行するために、大規模双生児レジストリを構築し、人間の広範な形質と、その個人を取り巻く家庭や社会の背景を繰り返し測定してきた。そして、パーソナリティや感情という心理的形質の個人差に、さらには、社会的態度や向社会性、教育的・社会的達成という社会的形質の個人差にも、遺伝の影響が顕著に寄与していることを明らかにしてきた。

本企画では、子ども達が認知能力と非認知能力をどのように発達させていくのかを解明することを目的とし、KoTReCが実施してきた「学力と生きる力のふたご家族調査」から得られた知見と課題について、報告及び議論を行う。同調査は第1回を2018年、第2回を2020年、第3回を2022年に終え、第4回を2024年に予定している。これまでの調査協力家族数は、第1回が722、第2回が740、第3回が744であり、そのうち3回共に協力が得られたのは443家庭であった。調査協力のべ人数は、2003～2010年生まれの小学3年から高校3年までの双生児4378名、父親1773名、母親2180名であった。

話題提供は、敷島が調査の概要を説明し、認知能力指標と非認知能力指標の間に見られる相関について幅広く報告する。山口は、「やり抜く力」と学力の遺伝と環境レベルでの相関について分析結果を報告する。下司は、「ダーク・トライアド」と認知・非認知能力との関連を、遺伝と環境の原因論から検討する。川本は、行動遺伝学的方法論を説明し、学力と情動知能の縦断的関連性を行動遺伝学的な分析により検討する。認知能力と非認知能力の形成における、遺伝と環境が絡み合う複雑な相互作用を明らかにすることにより、行動遺伝学は社会心理学にどのように貢献し得るのか、指定討論者が提起する論点をもとに、広く議論を展開する。

社会心理学は公的部門の政策・施策にどうかかわるか

企画者： 島田 貴仁 (科学警察研究所)・白岩 祐子 (埼玉県立大学)

司会者： 島田 貴仁 (科学警察研究所)・白岩 祐子 (埼玉県立大学)

話題提供者： 白岩 祐子 (埼玉県立大学)
島田 貴仁 (科学警察研究所)

指定討論者： 西田 公昭 (立正大学)
広田 すみれ (東京都市大学)

概要

我が国が少子高齢化・人口減少を迎える中、中央省庁や自治体などの公的部門では、EBPM（エビデンスに基づく政策形成）や、行動インサイト・ナッジに基づく介入への関心が高まっている。2017年からは環境省主催で日本版ナッジ・ユニット連絡会議が開催されるなど、政策の各分野において、研究者と実務家が、従来の審議会や政策評価の枠組みを越えて、政策の立案・実施、効果検証の各段階で協働することにより、社会の課題解決と、妥当性の高い学術知見の獲得が可能になっている。

社会心理学を始めとする心理学は、これらの公的部門のニーズに応える道具立てを持っている。しかし、実際の政策場面における心理学（社会心理学）の関与は、経済学や工学など他の学問分野に比べると低調であるように思われる。

その原因としては、応用研究の宿命であるデータ取得コスト、研究の質の確保、実務家のニーズと研究者の関心の不一致といったさまざまな障壁が考えられる。一方で、社会心理学が公的部門に関与することで、政策の社会的受容や、公的部門と市民とのコミュニケーションの改善など、他の学問分野ではできない貢献が可能であると思われる。

本ワークショップでは、公的部門との協働経験を有する / 協働に関心がある / 公的部門の政策・施策・介入を研究対象とする研究者が集い、社会心理学が公的部門の政策・施策にどうかかわるかについて討議したい。具体的なテーマとしては、①日本におけるEBPM・行動インサイト・ナッジの現状認識（心理学との適合性、受容の文化差）、②研究の方法論とエビデンスレベル（RCTはどこまで必要か）、③介入・社会実装・人材育成のあり方、を予定している。

一言に公的部門といっても、研究者と実務家をとりまく事情は、分野によって大きく異なると考えられる。このため、本ワークショップでは、当日参集した参加者による議論に時間を割くこととしたい。企画者2名は議論のキックオフをすることとし、参加者による議論の後に、経験豊富な2先生には総括としての指定発言を依頼している。多くの方の参加をお待ちしている。

道徳と信念

座長 北村 英哉

- | | | | |
|-------|--|---|--|
| O0101 | 9:30~9:45
感謝体験者が恩人の不正を隠す嘘
嘘のつきやすさと第三者視点からの許容度 | ○山本 晶友 | 上智大学 |
| O0102 | 9:45~10:00
日本における陰謀論受容の実態及びその心理的背景
についての研究 | ○黄 宇成
藤井 聡
川端 祐一郎 | 三井住友海上火災保険(株)
京都大学
京都大学 |
| O0103 | 10:00~10:15
オキシトシン受容体(OXTR)遺伝子多型、規範の強
さ、道徳基盤との関連 | ○石井 敬子
松永 昌宏
増田 貴彦
野口 泰基
山末 英典
大坪 庸介 | 名古屋大学
愛知医科大学
アルバータ大学
神戸大学
浜松医科大学
東京大学 |
| O0104 | 10:15~10:30
自粛警察容認と権威主義的パーソナリティおよび公正
世界信念 | ○北村 英哉 | 東洋大学 |

O02 口頭発表

第2日 (9月8日) 9:30～10:30

オンラインB

ライフスタイル

座長 水野 一成

O0201	9:30～9:45 中学生のICT利活用Ⅰ スマートフォン編 —モバイル利用のライフスタイル研究—	○近藤 勢津子 (株)NTTドコモ 水野 一成 (株)NTTドコモ 飽戸 弘 東京大学
O0202	9:45～10:00 中学生のICT利活用Ⅱ パソコン・タブレット編 —モバイル利用のライフスタイル研究—	○水野 一成 (株)NTTドコモ 近藤 勢津子 (株)NTTドコモ 飽戸 弘 東京大学
O0203	10:00～10:15 スマートフォン利用者の関与別の特徴 —モバイル利用のライフスタイル研究—	○小島 誠也 (株)NTTドコモ 飽戸 弘 東京大学
O0204	10:15～10:30 新型コロナウイルス感染症対策とコロナ後の生活の定着 —モバイル利用のライフスタイル研究—	○佐藤 仁 (株)NTTドコモ 飽戸 弘 東京大学

O03 口頭発表

第2日 (9月8日) 9:30 ~ 10:30

オンラインC

社会的ジレンマ

座長 今田 大貴

- | | | | |
|-------|--|------------------------------------|-----------------------------------|
| O0301 | 9:30 ~ 9:45
メンバーの社会的な手抜きに対する認識が社会的な手抜きに及ぼす影響
社会的な情報処理理論、感情イベント理論と公平理論に基づいて | ○井上 佳奈
池田 浩 | 九州大学
九州大学 |
| O0302 | 9:45 ~ 10:00
社会的ジレンマの罰行使者に対する集団間代理報復 | ○小野田 竜一 | 大東文化大学 |
| O0303 | 10:00 ~ 10:15
プール罰の機能不全と協力率の低減
突然の機能不全と段階的な機能不全の比較 | ○今田 大貴
水野 景子
高野 了太
館石 和香葉 | 高知工科大学
関西学院大学
東京大学
北海道大学 |
| O0304 | 10:15 ~ 10:30
同調と罰が生み出す協力社会のマクロ・ダイナミクス | ○貴堂 雄太
竹澤 正哲 | 北海道大学・日本学術振興会
北海道大学 |

マス・コミュニケーション

座長 安野 智子

- | | | | |
|-------|---|---|---|
| O0401 | 10:45 ~ 11:00
コロナ禍における外出自粛とTwitter
テキストデータの感情分析による検討 | ○鈴木 貴久
鳥海 不二夫
山本 仁志
小川 祐樹
梅谷 凌平 | 津田塾大学
東京大学
立正大学
東京都市大学
筑波大学 |
| O0402 | 11:00 ~ 11:15
仮想世界ゲーム電子版における社会的変革について
—事例研究— | ○戴 澄葦
柿本 敏克
細野 文雄 | 群馬大学
群馬大学
群馬大学 |
| O0403 | 11:15 ~ 11:30
インターネット上での居場所となる人間関係の構築過程 | ○藤井 美里 | 立命館大学 |
| O0404 | 11:30 ~ 11:45
警告ラベルがフェイクニュースに対する認知に及ぼす影響
コメント内容の影響に着目 | ○陳 晗
寶 雪 | 立命館大学
立命館大学 |
| O0405 | 11:45 ~ 12:00
ネットニュースにおける新しい情報提供のあり方 | ○安野 智子
市川 芳治 | 中央大学
慶應義塾大学・日本放送協会 |

O05 口頭発表

第2日 (9月8日) 10:45 ~ 11:45

オンラインB

集団・集合

座長 今城 志保

- | | | | |
|-------|--|---|---|
| O0501 | 10:45 ~ 11:00
自律的に働くことを阻害するものは何か
同僚の態度の推測がもたらす影響の検討 | ○今城 志保 | (株)リクルートマネジメントソリューションズ |
| O0502 | 11:00 ~ 11:15
社会的影響モデルは実数値意見に適用できるか? | ○高木 英至 | 埼玉大学 |
| O0503 | 11:15 ~ 11:30
社会情報は政治的偏見に基づくバイアスを低減できるか? | ○金 恵璘
森 隆太郎
Hugo Mercier
亀田 達也 | 東京大学・科学技術振興機構
東京大学・日本学術振興会
CNRS
東京大学 |
| O0504 | 11:30 ~ 11:45
斜行伝達に基づく非適応的な文化進化
Richerson & Boyd (1984) の再検討 | ○佐野 千夏
竹澤 正哲 | 北海道大学
北海道大学 |

偏見・ステレオタイプ

座長 田村 美恵

- | | | | |
|-------|--|---------------------------|--|
| O0601 | 13:00 ~ 13:15
アジア訛りの英語非母語話者に対するステレオタイプ
話し手の訛り度と聞き手の母語話者信奉 (native
speakerism) の影響について | ○田村 美恵 | 神戸市外国語大学 |
| O0602 | 13:15 ~ 13:30
Effects of vicarious contact on intercultural communica-
tion apprehension and foreign language confidence | ○Anqi Hu
Josh Brunotte | Ibaraki University
Aichi Prefectural University |
| O0603 | 13:30 ~ 13:45
被害者非難の抑制におけるリバウンド効果の低減方略
代替思考に注目して | ○王 詩頤
北村 英哉 | 東洋大学
東洋大学 |
| O0604 | 13:45 ~ 14:00
視覚イメージ能力の個人差と想像的な読解方略の使用
傾向が物語説得の効果に及ぼす影響 | ○河口 陽菜
品田 瑞穂 | 東京学芸大学
東京学芸大学 |

対人相互作用

座長 石井 辰典

- | | | | |
|-------|---|---------------------------|------------------------|
| O0701 | 13:00～13:15
SNSでの投稿頻度・文化的自己観とwell-beingとの関連について
多世代での比較検討 | ○福沢 愛
菅原 育子 | 武蔵野大学
西武文理大学 |
| O0702 | 13:15～13:30
他者コメントが炎上参加に与える影響について | ○廉 志顕
寶 雪 | 立命館大学
立命館大学 |
| O0703 | 13:30～13:45
過剰な援助を行う者が与える印象
—第三者視点からの検討— | ○志澤 翔太郎
川上 直秋
宮本 聡介 | 筑波大学
筑波大学
明治学院大学 |
| O0704 | 13:45～14:00
運動同期と社会的投影：
オンライン実験による検討 | ○石井 辰典
渡邊 克巳 | 日本女子大学
早稲田大学 |

身近な人間関係 / 社会的認知

座長 浅野 良輔

<p>O0801 14:15~14:30 Procrastination(先延ばし)とPrecrastination(前倒し)の特徴 自己制御との関連に着目した実証的検討</p>	<p>○安達 未来 安達 啓介</p>	<p>大阪電気通信大学 神戸学院大学</p>
<p>O0802 14:30~14:45 非人間化の枠組みを用いた関係依存メカニズムの解明 —親密関係の暴力の被害者の視点から—</p>	<p>○黄 瑤 相馬 敏彦</p>	<p>広島大学 広島大学</p>
<p>O0803 14:45~15:00 両親に対する過剰適応と抑うつ・主観的幸福感との関連</p>	<p>○今田 奈緒 阿部 夏希 西村 由貴子 中島 健一郎</p>	<p>広島大学 広島文教大学 広島大学・日本学術振興会 広島大学</p>
<p>O0804 15:00~15:15 あなたが幸せなら私も幸せ —北米人夫婦の縦断ペアデータによる検討—</p>	<p>○浅野 良輔 金政 祐司 古村 健太郎 伊藤 健一</p>	<p>久留米大学 追手門学院大学 弘前大学 University of Lethbridge</p>

O09口頭発表

第2日(9月8日) 14:15～15:15

オンラインB

対人葛藤 / 社会的認知

座長 品田 瑞穂

- | | | | |
|-------|--|---------|--------|
| O0901 | 14:15～14:30
意思決定時における内受容感覚と感情・覚醒の関連の検討 | ○杉浦 秀一 | 放送大学 |
| O0902 | 14:30～14:45
因果的思考による対応バイアスの低減
—日本人とアメリカ人を対象とするオンライン実験— | ○外山 みどり | 学習院大学 |
| O0903 | 14:45～15:00
他者への共感が葛藤解消への動機づけに与える影響
対人葛藤場面の想起における共感的関心と視点取得の効果 | ○品田 瑞穂 | 東京学芸大学 |
| O0904 | 15:00～15:15
裁判例における「いじめ」の用法と変化
判例検索システムを用いた言説分析の試み | ○八ッ塚 一郎 | 熊本大学 |

O10口頭発表

第2日 (9月8日) 14:15 ~ 15:15

オンラインC

社会問題

座長 吉澤 寛之

- | | | |
|-------|--|---|
| O1001 | 14:15 ~ 14:30
Belonging in the Digital Age :
An Examination of Online Lesbian Communities and
Mental Health Outcomes in China | ○Xueqin Huang Nagoya University
Xingjian Gao Nagoya University |
| O1002 | 14:30 ~ 14:45
職場の非礼に社会的機能はあるのか
—強制行為の社会相互作用理論の視点から— | ○宮崎 美保 広島大学
相馬 敏彦 広島大学 |
| O1003 | 14:45 ~ 15:00
大学生の心理的資本が学習意欲と協同学習での発言
に及ぼす影響 | ○堂西 晴香 和歌山大学
厨子 直之 和歌山大学 |
| O1004 | 15:00 ~ 15:15
子どもの対人環境と社会的情報処理との関連
—主観視点ヴァーチャルリアリティ測定法による検討— | ○吉澤 寛之 岐阜大学
吉田 琢哉 岐阜聖徳学園大学
浅野 良輔 久留米大学
大隅 尚広 千葉大学 |

P11ポスター発表

第1日 (9月7日) 10:00 ~ 11:30

6号館4階402教室

在席責任時間 奇数番号：10:00 ~ 10:45 偶数番号：10:45 ~ 11:30

P11001	メンタライジングとコミュニティ所属 パフォーマンス測定によるメンタライジング指標を用いた 検討	○平島 太郎 五十嵐 祐	愛知淑徳大学 名古屋大学
P11002	協働の役割分化による共感性の低下と否定的評価の過 大推測の抑制	○田丸 有生 藤島 喜嗣	昭和女子大学 昭和女子大学
P11003	ゆるせない出来事に関する認知の変容 (1) —測定指標の開発—	○小浜 駿 沼田 真美	宇都宮共和大学 関西国際大学
P11004	ゆるせない出来事に関する認知の変容 (2) —2時点間の縦断調査結果から—	○沼田 真美 小浜 駿	関西国際大学 宇都宮共和大学
P11005	日本人用非言語的手がかりに関する知識テスト (TONCK-II for J) の作成 (2) —社会心理学の知識および解釈の正確さとの関連—	○小川 一美 木村 昌紀 藤原 健 平島 太郎	愛知淑徳大学 神戸女学院大学 National Chung Cheng University 愛知淑徳大学
P11006	管理職採用面接での応募者の感情表出が人物評価に 与える影響 エピソードトークに関する「怒り」の感情の伝え方の違 いに着目して	○山内 香奈	成城大学
P11007	オンラインコミュニティ上の弱い紐帯と孤独感	○Nahyun Kim 片桐 恵子	神戸大学 神戸大学
P11008	震災時通話の特徴 (2) 通話を誘発する要因と通話による感情の変化	○松崎 圭佑 飯干 諒祐 大江 朋子 望月 要 山岡 克式 馬場 健一 宮田 純子 大西 仁 北口 善明	東京都立大学 帝京大学 帝京大学 帝京大学 東京工業大学 工学院大学 芝浦工業大学 放送大学 東京工業大学
P11009	共有される状況認識の違いは合意形成を促進・阻害 するか 共有資源の利用をめぐる葛藤を表現したゲーミングによ る検討	○辻本 光英 河合 康介 大沼 進	北海道大学 北海道大学 北海道大学
P11010	子どもの道徳性を促進する保育者の役割 保護者が持つ保育への期待調査結果から	○大森 弘子 太田 仁 山本 圭吾	京都文教大学 奈良大学 関西大学
P11011	援助者の探索過程4 複雑性PTSDのソーシャルスキルへの影響過程	○太田 仁 山本 圭吾 藤家 研太	奈良大学 関西大学 家族社会心理学研究所
P11012	向社会的行動の質と生起要因, 行動結果との関係性 の検討	○曹 蓮 山崎 悠大 柏本 幸俊 上坂 大輔	(株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所 (株)KDDI総合研究所

ポスター発表P11 第1日

P11013	動脈血圧反射は社会的排斥に対する攻撃行動を抑制する	○伊崎 翼 石井 圭 浅原 亮太 木村 健太	高知工科大学 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所 産業技術総合研究所
P11014	なぜひとは他人を傷つけて笑うことを効果的と感じるのか 攻撃的ユーモアコーピング傾向の高さを説明する要因の検討	○本郷 亜維子 森 津太子	放送大学 放送大学
P11015	人はマスクの下に何を見るのか？ —マスク着用時の遮蔽部に対する想像と期待—	○費 思怡 志澤 翔太郎 川上 直秋	筑波大学 筑波大学 筑波大学
P11016	チームワーク能力の下位能力と職場適応・大学適応との関連 就業者と学生との比較	○渡部 麻美	東洋英和女学院大学
P11017	異なる状況下における討論時の振り舞い方と社会的スキルの関係	○石川 真	上越教育大学
P11018	ソーシャルスキルが職場ストレス・心理的ストレス反応に及ぼす影響 東南アジア地域における日系企業従業員と現地企業従業員との多母集団同時分析による比較	○田中 健吾 高原 龍二	大阪経済大学 大阪経済大学
P11019	大学生のInstagramの複数アカウントの利用に関する探索的検討	○市村 美帆	和洋女子大学
P11020	共働き夫婦におけるワーク・ファミリー・コンフリクトによりもたらされるディストレスの調整要因の検討 —配偶者から受けた共感のタイプとコンフリクトの発生要因の違いに着目して—	○橋本 千裕 相馬 敏彦 西村 太志 正岡 亜季乃 古谷 嘉一郎	広島市民病院 広島大学 広島国際大学 広島国際大学 関西大学
P11021	養育者は周囲の対人資源を「子育てチーム」としてどこまで認知しているのか？	○西村 太志 正岡 亜季乃 相馬 敏彦 橋本 千裕 古谷 嘉一郎	広島国際大学 広島国際大学 広島大学 広島市民病院 関西大学
P11022	思春期後期におけるペットの飼育は家族との関わりを介してWell-beingや一般的信頼を高める —アンケートデータを用いた共分散構造分析より—	○子安 ひかり 小笠原 さくら 菊水 健史 永澤 美保	麻布大学 麻布大学 麻布大学 麻布大学
P11023	保育者・小学校教諭における反芻・省察と働く中での充実感・ストレスとの関連	○小池 はるか	東海大学
P11024	アンサンブル表情顔の知覚を用いた集団雰囲気認知自己愛に着目して	○磯部 智加衣	千葉大学
P11025	大学生の男性アスリートが認知する心理的危険および危険性の特徴 KJ法を用いた質的検討	○松原 旭飛 高井 秀明 浦 佑大 折茂 紗英 内川 義弘	日本体育大学 日本体育大学 環太平洋大学 日本体育大学 日本体育大学

ポスター発表P11 第1日

P11026	能力格差と流動性は誰の協力意欲を高めるか？ 集団内の個人の立ち位置に注目した企業組織データ 分析	○仲間 大輔 村本 由紀子	(株)リクルートマネジメントソリューションズ 東京大学
P11027	Heterosexuals' emotional perceptions toward fictive homosexual profiles : an examination from in-group bias	○Benoit Bucher Maiko Kobayashi Katsumi Watanabe	Waseda University・Japan Society for the Promotion of Science Waseda University・Japan Society for the Promotion of Science Waseda University
P11028	多数派を過剰に模倣する方向は変わるのか？ Eriksson & Coultas (2009) に従った多数派同調バイ アスの実験的検討	○藤川 真子 横田 晋大 徳岡 大 中西 大輔	広島修道大学 広島修道大学 人間環境大学 広島修道大学
P11029	2つの分配が独立に評価されない状況の探索	○上島 淳史 瀧川 裕貴	東北大学・日本学術振興会 東京大学
P11030	リアルタイムの囚人のジレンマにおける能動的な協力行 動と返報	○森 隆太郎 高橋 茉優 花木 伸行 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 東京大学・日本学術振興会 大阪大学 東京大学
P11031	リーダーシップとフォロワーシップの役割共存	○山下 美月 縄田 健悟 池田 浩	九州大学 福岡大学 九州大学
P11032	職場のOJT重視度と成果主義が暗黙理論に与える影 響	○鈴木 啓太 伊藤 篤希	立命館大学 一橋大学・日本学術振興会
P11033	アスリートにおける心理的安全性の効果検証 先行要因としてのサーバント・リーダーシップに着目し て	○上田 寛 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P11034	共同収奪ゲームにおける競争的利他主義の検討	○川口 周一郎 河村 悠太	大阪公立大学 大阪公立大学
P11035	集団意思決定における公正さと“討議の質指標”の対 応関係の検討 低濃度除去土壌福島県外処理問題を題材とした集団 討議実験	○相馬 ゆめ 柴田 侑秀 辻本 光英 中澤 高師 辰巳 智行 大沼 進	北海道大学 北海道大学 北海道大学 東洋大学 豊橋創造大学短期大学部 北海道大学
P11036	相手国の人に対する好感度における、個人の評価と他 者への推測の関連 —日本人の世代差に注目して—	○吳 碩博 齋藤 僚介 稲増 一憲	関西学院大学 大阪大学 関西学院大学
P11037	リーダー評価が上司からのサポート期待と心理的安全 性に与える影響	○森下 雄輔 谷口 淳一 宮川 裕基	大阪国際大学 帝塚山大学 追手門学院大学
P11038	協働的ジョブ・クラフティングと心理的安全性がワーク・ エンゲージメントに与える効果 —上司のフィードバックの特性を起点としたプロセスの 検討—	○繁梶 江里 山口 裕幸	青山学院大学 九州大学
P11039	職場の感謝行動の規定因と帰結の探索的検討 感謝の「伝え方」と「頻度」の違いに着目した分析	○正木 郁太郎	東京女子大学

P12ポスター発表

第1日 (9月7日) 10:00 ~ 11:30

6号館4階403教室

在席責任時間 奇数番号：10:00 ~ 10:45 偶数番号：10:45 ~ 11:30

- | | | |
|--------|--|---|
| P12043 | 甘えに関する多言語からの検討
ブラジル・日本・アメリカからの分析 | ○Igor de Almeida 京都大学
中尾 元 追手門学院大学
Alethea Koh 京都大学
Pamela Taylor 国際教養大学
Fabio José Cardias-Gomes マラニョン国立大学 |
| P12044 | 拒否回避傾向の文化差はどこからくるのか
関係流動性と評判期待の役割 | ○日下部 春野 北海道大学
前田 友吾 北海道大学・日本学術振興会
結城 雅樹 北海道大学 |
| P12045 | 名声バイアスの計算論モデリング
手がかりの違いが文化進化に与える効果の検討 | ○中田 星矢 東京大学
真隅 暁 北陸先端科学技術大学院大学
外谷 弦太 東京大学・帝京大学 |
| P12046 | 被信頼感および自己信頼感と一般的信頼感の関連に
関する日中比較 | ○林 萍萍 大阪商業大学 |
| P12047 | 低コンテキスト文化が形成される要因：
文化多様性および関係流動性 | ○呉 長憶 大阪公立大学
山 祐嗣 大阪公立大学 |
| P12048 | 大雨時における住民の災害情報の認識と避難行動
2022年8月の前線による大雨を事例として | ○元吉 忠寛 関西大学 |
| P12049 | 上位階層者の人生苦難強調による格差是正政策賛意
への影響 | ○柿本 航哉 東洋大学
北村 英哉 東洋大学 |
| P12050 | 自動運転車の利用意図と正義態度との関連 | ○北折 充隆 金城学院大学
吉武 久美 人間環境大学 |
| P12051 | 孤独感と抑うつ傾向の関連における μ オピオイド受容
体遺伝子の調整効果 | ○李 述冰 玉川大学
仁科 国之 大阪大学
高橋 英彦 東京医科歯科大学
村山 美穂 京都大学
高岸 治人 玉川大学 |
| P12052 | 日本社会および地域におけるマイクロ公正感がウェルビー
イングに及ぼす相補的効果 | ○川嶋 伸佳 神奈川大学 |
| P12053 | メタステレオタイプと性役割態度が同性愛者に対する態
度に及ぼす影響 | ○竹原 菜々子 東京女子大学
長谷川 孝治 駒澤大学
工藤 恵理子 東京女子大学 |
| P12054 | 親密な関係破綻後のストーキング関連行動についての
探索的調査
—経験率および自己制御能力との関連— | ○長江 優希 大阪大学
綿村 英一郎 大阪大学 |
| P12055 | 受刑者の就労に関連する心理・社会的要因につい
て (1)
逮捕時の収入や収入に関する認知の性差に着目して | ○山岡 あゆち 東京大学
佐々木 彩子 矯正研修所効果検証センター |
| P12056 | 防犯講座は若年女性の犯罪予防行動につながるの
か？
路上での性犯罪に注目した検討 | ○荒井 崇史 東北大学
金子 侑生 東北大学
齋藤 知範 科学警察研究所 |

ポスター発表P12 第1日

P12057	医師と患者の立場による患者中心性の認識の差異 パーソナリティおよびその後の患者の行動との関連	○阿部 晋吾	関西大学
P12058	環境問題に対する認識の地域比較と経年変化 福島と鹿児島における二次元イメージ展開法を用いた 検討	○園田 美保 永幡 幸司	鹿児島女子短期大学 福島大学
P12059	模擬市民参加ワークショップ参加者の態度変容の検討 除去土壌県外最終処分を題材として	○柴田 侑秀 相馬 ゆめ 辻本 光英 植 穂奈美 木原 なな 大沼 進 保高 徹生	北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 産業総合研究機構
P12060	気候変動の原因帰属にはどのメディアが影響している のか： 国際比較	○安藤 香織 井奥 智大 神原 歩 杉浦 淳吉 金山 英莉花 大沼 進	奈良女子大学 大阪大学 京都先端科学大学 慶應義塾大学 同志社大学 北海道大学
P12061	事例情報と統計情報の組み合わせ効果の検討 緊急地震速報の有効性評価に着目して	○横井 良典 中谷内 一也	京都橘大学 同志社大学
P12062	接触確認アプリ（COCOA）の受容態度と文化的認知 の関連	○高木 彩 武田 美亜	千葉工業大学 青山学院大学

P13ポスター発表

第1日 (9月7日) 10:00 ~ 11:30

6号館4階408教室

在席責任時間 奇数番号: 10:00 ~ 10:45 偶数番号: 10:45 ~ 11:30

- | | | | |
|--------|--|--|---|
| P13063 | 自尊心と安心さがツイートとフォロワーからの受容的返信が感情反応に及ぼす影響
—自己本位な安心さがツイートを気遣われるほど、低自尊心者は不安になる— | ○長谷川 孝治
古里 由香里
古谷 嘉一郎
佐藤 広英 | 駒澤大学
お茶の水女子大学
関西大学
信州大学 |
| P13064 | 孤独感と居住地特徴に対する認識の関連
—主観的居住地認識尺度 (PeNES) を用いて— | ○澤田 奈々実
小塩 真司 | 早稲田大学
早稲田大学 |
| P13065 | 道徳ジレンマにおける道徳不活性化の影響
—古川 (2022a, b) の追試— | ○古川 善也 | 福岡大学 |
| P13066 | 早い繁殖スケジュールは逆境的な幼少期環境に対する適応か?
表現型可塑性の進化条件の検証 | ○米谷 充史
大坪 庸介 | 神戸大学
東京大学 |
| P13067 | オキシトシン受容体遺伝子多型と共感性の関連 | ○汪 明琛
仁科 国之
高橋 英彦
村山 美穂
高岸 治人 | 玉川大学
大阪大学
東京医科歯科大学
京都大学
玉川大学 |
| P13068 | 大学生の孤独リスクに関わる個人・集団レベルの縦断調査研究
基礎的分析の報告 | ○戸谷 彰宏
李 受珉
清水 陽香
安部 主晃
重松 潤
張 清源
神原 広平
阿部 夏希
早瀬 良
杉浦 仁美
阿部 修士
中井 隆介
柳澤 邦昭
中島 健一郎 | 広島大学
広島大学
西九州大学短期大学部
広島大学
富山大学
広島大学
同志社大学
広島文教大学
中部大学
近畿大学
京都大学
京都大学
神戸大学
広島大学 |
| P13069 | ギャンブラーは感情制御が苦手か?
—WEB調査による検討— | ○高田 琢弘 | 東海学園大学 |
| P13070 | 状況要因は防衛的悲観主義の選択に影響を与えるか | ○趙 曉辰
中村 真 | 宇都宮大学
宇都宮大学 |
| P13071 | 目撃記憶とメディア接触及び過去経験の関連の検討 | ○金子 明日香
川崎 直樹
石井 辰典 | 日本女子大学
日本女子大学
日本女子大学 |
| P13072 | 妖怪は最小限反直観的か
—MCIを通じた日本の妖怪の研究— | ○須山 巨基
本田 菜々子
中分 遥 | 安田女子大学・明治学院大学
安田女子大学
安田女子大学 |
| P13073 | 社会の不確実性感と自己愛の関係
自己評価の安定性に注目して | ○新井田 恵美 | 東洋大学 |

ポスター発表P13 第1日

P13074	増減する文脈情報, 及び価値判断と予測値の関係	○野田 理世	金城学院大学
P13075	自動運転システムの擬人性がシステムに対する印象評価に及ぼす影響	○濱田 龍 長谷川 孝治	駒澤大学 駒澤大学
P13076	反道徳的行為をした者に対する非人間化 道徳基盤理論における各道徳基盤からの逸脱行為と非人間化の関係	○齊藤 俊樹 渡邊 克巳	早稲田大学・日本学術振興会 早稲田大学
P13077	知覚された関係流動性尺度の再検討 項目反応理論を用いて	○五十嵐 祐	名古屋大学
P13078	潜在指標を用いた道徳性優位仮説の検討 —自発的特性推論の実験パラダイムを用いて—	○佐野 秀 宮本 聡介	明治学院大学 明治学院大学
P13079	物語形式による情報伝達が対人認知に及ぼす影響について —犯罪報道場面における容疑者の素性に関する伝達を題材として—	○金田 宗久 伊藤 君男 岡本 真一郎	愛知学院大学 東海学園大学 元愛知学院大学
P13080	自他の相対的位置と基準の関係の再検討 Garcia, Tor, & Gonzalez (2006) の追試	○大久保 暢俊	東洋大学
P13081	システム脅威が地位に基づく相補的ステレオタイプの表明に及ぼす効果 —性・社会階層の調整効果：一般サンプルでの検討—	○沼崎 誠 李 禱飛 朴 建映 松崎 圭佑	東京都立大学 東京都立大学 東京都立大学 東京都立大学
P13082	孤立・孤独に対する社会的スティグマの検討	○杉浦 仁美 柳澤 邦昭	近畿大学 神戸大学
P13083	性別情報が職業的なリーダーの選択に及ぼす影響 (2)	○石井 国雄 境 聖 児玉 滯	東京家政大学 清泉女学院大学 清泉女学院大学
P13084	心理的本質主義信念のカテゴリー普遍性についての検証	○塚本 早織 小野島 昂洋	愛知学院大学 愛知学院大学
P13085	不公正世界信念尺度の妥当性・信頼性の検討	○西辻 好花 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P13086	APPIe IIと二分法的思考・特権意識・批判的思考態度との関連 不思議現象に対する態度 (73)	○小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P13087	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (14) 心理的耐久性 (Durability) とレジリエンスとの関連 (3)	○畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P13088	社会的態度の個人差を説明する概念としての「常民性」の探究 (1) 測定尺度開発の試み	○三浦 麻子 小林 哲郎 清水 裕士	大阪大学 香港城市大学 関西学院大学
P13089	ヘルプマークは誰のため? 未来志向メッセージと知識の有無がヘルプマークに対する肯定的な理解に及ぼす効果	○前田 楓 橋本 博文 佐藤 剛介	立教大学 大阪公立大学 久留米大学

ポスター発表P13 第1日

- | | | | |
|--------|---|------------------------------------|--|
| P13090 | ヘルプマーク利用者に対する援助意図の促進・抑制
因の検討 | ○橋本 博文
前田 楓
山崎 梨花子
佐藤 剛介 | 大阪公立大学
立教大学
高齢・障害・求職者雇用支援機構
久留米大学 |
| P13091 | 他人からの依頼ときょうだいからの依頼は違うのか
—関係性と理由提示が依頼の応諾に及ぼす影響— | ○小森 めぐみ | 淑徳大学 |
| P13092 | 道徳判断における基準のフォールス・コンセンサス効
果 | ○松尾 朗子
北村 英哉
唯 なおみ
熊谷 晋一郎 | 東京大学
東洋大学
東京大学
東京大学 |

P14ポスター発表

第1日 (9月7日) 10:00 ~ 11:30

6号館4階409教室

在席責任時間 奇数番号 : 10:00 ~ 10:45 偶数番号 : 10:45 ~ 11:30

- | | | | |
|--------|---|---|--|
| P14095 | “HSP” / “HSC” という語を用いた現象説明の拡大過程
Twitter上に観察される直近4年間の投稿に着目して | ○中村 日海里 | |
| P14096 | コロナ禍で変化したストレス低減行動の特徴 | ○飯干 諒祐
大江 朋子 | 帝京大学
帝京大学 |
| P14097 | オンライン脱抑制がどのようにネット上での行動に影響を及ぼすか
—ネット掲示板閲覧場面を用いてオンライン脱抑制の影響メカニズムを検討する— | ○温 若寒
三浦 麻子 | 大阪大学
大阪大学 |
| P14098 | 同性愛者への意識とメディア接触との関連性の検討 | ○趙 承博
川嶋 伸佳 | 東洋大学
神奈川大学 |
| P14099 | Online Public Opinion on Government Response Measures During a Pandemic
Lessons from Japan | ○Xiaodong Zhang
Jiaqi Zheng | Fudan University
Hitotsubashi University |
| P14100 | 保護者評定によるインターネット依存尺度の作成 (2) 妥当性の検討 | ○松尾 由美
田島 祥
坂元 章 | 江戸川大学
東海大学
お茶の水女子大学 |
| P14101 | メディア利用と関連を持つ世界観についての探索的検討 | ○稲増 一憲
金子 智樹
小林 哲郎
三輪 洋文 | 関西学院大学
東北大学
香港城市大学
学習院大学 |
| P14102 | 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における消費者の購買行動に対する個人特性の影響 | ○工藤 大介
李 楊 | 東北学院大学
名古屋大学 |
| P14103 | 新型コロナウイルスと倫理的消費
—消費者像からの検討— | ○泉水 清志 | 育英短期大学 |
| P14104 | ネットショッピングにおける仮想的な接触が所有感・購買意欲に及ぼす影響：
タブレット (iPad) で360° viewを用いた際に仮想的な接触の効果が見られるのか | ○前田 洋光
小松 由佳 | 京都橘大学
京都橘大学 |
| P14105 | The Effects of Anchoring and Framing on Green Consumption | ○Boxuan Song
Yasunori Morishima
Nobuhiko Goto | Hitotsubashi University
International Christian University
Hitotsubashi University |
| P14106 | 日本の子ども向けCMの10年の変化
2012年と2022年放送の子ども向け番組の内容分析から | ○藤井 達也 | 東京経済大学 |
| P14107 | 会話相手の選択に与える政治的選好の効果：
日常生活での意思決定を対象としたコンジョイント実験による検証 | ○横山 智哉
荒井 紀一郎 | 学習院大学
中央大学 |

ポスター発表P14 第1日

- | | | | |
|--------|---|-------------------------|------------------------|
| P14108 | 活動者に対する人々の印象の予測がLGBTのための活動意図に及ぼす影響 | ○坂巻 文音
竹部 成崇
高 史明 | 東洋大学
大妻女子大学
東洋大学 |
| P14109 | 右派と左派のシニシズム
—民主主義観への交互作用効果— | ○平野 浩 | 学習院大学 |
| P14110 | 公職選挙法に対する有権者の理解
政治家の寄付行為についての統一地方選挙全国意識調査の分析 | ○岡田 陽介 | 拓殖大学 |
| P14111 | 地方紙の選挙報道
2012年衆院選における茨城新聞の見出しの分析 | ○和田 桃子 | 拓殖大学 |

P21ポスター発表

第1日 (9月7日) 14:00 ~ 15:30

6号館4階402教室

在席責任時間 奇数番号: 14:00 ~ 14:45 偶数番号: 14:45 ~ 15:30

P21001	三者間独裁者ゲームの統計モデリング 罪悪感が被害者に対する資源分配を促進するメカニズムの探索的検討	○紀ノ定 保礼 若井 大成 古川 善也 中島 健一郎	静岡理科大学 東京大学 福岡大学 広島大学
P21002	三者間独裁者ゲームの認知モデリング 0・1過剰一般化ディクレ分布の提案	○若井 大成 紀ノ定 保礼 古川 善也 中島 健一郎	東京大学 静岡理科大学 福岡大学 広島大学
P21003	What Makes You Approach or Avoid Strangers? The Roles of Relational Mobility, General Trust, and Self-Esteem	○Yue Bi Masaki Yuki	Hokkaido University Hokkaido University
P21004	日本語会話におけるディスクレイマーの影響 (2)	○酒井 拓人	愛知学院大学
P21005	聴覚媒体の違いによる説得効果への影響 Lieberman et al. (2022) の概念的追試	○樋口 匡貴 五十嵐 真子 大井 彩衣 佐藤 奏 栖原 恵海 中久喜 亜美	上智大学 上智大学 上智大学 上智大学 上智大学 上智大学
P21006	所属集団に関する説明が所属集団への説明者自身の評価に与える影響 —学部新入生歓迎会にスタッフとして参加した大学生を対象として—	○太幡 直也 菅 さやか 宮本 聡介	愛知学院大学 慶應義塾大学 明治学院大学
P21007	コミュニケーションツールと集団サイズが議論の質に及ぼす影響: Zoomは対面より話しにくいのか?	○岸 ひなた 前田 洋光	京都橘大学 京都橘大学
P21008	性質の異なる集合活動が主観的幸福感に与える影響 —「地縁・義務型の活動」と「趣味・選好型の活動」に着目して—	○福島 慎太郎 内田 由紀子 竹村 幸祐 金森 万里子 相田 潤	東京女子大学 京都大学 滋賀大学 京都大学 東京医科歯科大学
P21009	共感マインドセットとワーキングメモリキャパシティが集団間共感バイアスの生起に及ぼす影響	○吉田 綾乃	東北福祉大学
P21010	非ゼロサム的な時間の捉え方が援助を促進する	○新谷 優 Syamil Yakin Lora E.Park Ya-Hui Chang	法政大学 Ohio State University University at Buffalo University at Buffalo
P21011	共感的な熟慮が「身元のわかる犠牲者効果」の生起に及ぼす影響	○山本 佳祐 橋本 博文	京都文教大学 大阪公立大学
P21012	家族・友人関係と恋愛依存傾向がデート暴力加害に与える影響	○蜂谷 優友 山口 奈緒美 荒井 崇史	東北大学 東北福祉大学 東北大学

ポスター発表P21 第1日

P21013	評価懸念と攻撃行動の関連性 ソーシャルサポートの授受による差異	○山本 圭吾 太田 仁 阿部 晋吾	関西大学 奈良大学 関西大学
P21014	婚活プロフィールの評価における社会的情報の影響 「いいね！」の多さは外見や年収の不利を覆せるのか？	○天野 陽一	東京都立大学
P21015	結婚指輪の装着が初対面の男性の魅力に与える影響	○山下 倫実	十文字学園女子大学
P21016	基本6表情における感情の表出強度と表情解読の正確さの関連	○志水 勇之進 小川 一美 木村 昌紀 藤原 健 渡邊 伸行	愛知淑徳大学 愛知淑徳大学 神戸女学院大学 台湾国立中正大学 金沢工業大学
P21017	結婚生活の質に及ぼす夫婦間の欲求・満足と相互作用の影響	○周 玉慧	台湾中央研究院
P21018	サポートネットワークと孤独感から捉える社会的孤立	○古村 健太郎 相羽 美幸 菅原 大地 翠川 晴彦 櫛引 夏歩 白鳥 裕貴 川上 直秋 太刀川 弘和	弘前大学 東洋学園大学 筑波大学 筑波大学附属病院 弘前大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P21019	ビッグファイブの個人差と地域差による孤独感	○橋本 剛	静岡大学
P21020	閉ざされた一般互酬性仮説の再考 否定的評価の懸念と内集団への協力	○堀田 結孝 浜田 隼	帝京大学 帝京大学
P21021	普遍主義均衡の安定性を低下させる要因の検討	○館石 和香葉 高橋 伸幸	北海道大学 北海道大学
P21022	社会化に伴う社会的アイデンティティの共有と外集団成員の印象容	○岩田 奈々 藤島 喜嗣	昭和女子大学 昭和女子大学
P21023	最小条件集団パラダイムにおける社会選好の変化の検討	○井上 心太 水野 景子 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学・日本学術振興会 関西学院大学
P21024	内集団ひいきにおける直接互惠の予期と間接互惠の予期の比較	○水野 景子 井上 心太 清水 裕士	関西学院大学・日本学術振興会 関西学院大学 関西学院大学
P21025	世代を超えた協力を作るには 後続世代の存続に着目して	○高橋 茉優 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 東京大学
P21026	ゲームの有利さの違いが妬みと協力的行動に及ぼす影響 対PCの四人のジレンマゲームを用いた検討	○中井 彩香 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
P21027	「人工天罰」付き社会的ジレンマゲームの提案 誤推論による協力形成の実験的検証	○大藪 博記 仲間 大輔	鹿児島大学 (株)リクルートマネジメントソリューションズ

ポスター発表P21 第1日

P21028	個人は他者の協力に対する期待をどのように見積もるのか	○三木 毬菜 水野 景子 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学・日本学術振興会 関西学院大学
P21029	罰行使者に対する評価についての検討 Give some型とTake some型の比較	○小野 さくら 青木 颯太郎 館石 和香葉 水鳥 翔伍 高橋 伸幸	北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学
P21030	社会的ジレンマ状況で多数派同調バイアスは観察されるか?	○棗田 みな美 横田 晋大 中西 大輔	広島修道大学 広島修道大学 広島修道大学
P21031	「目」の提示及び感謝メッセージの提示が迷惑行為の抑止に及ぼす影響の検討	○真島 理恵 柴山 璃音	北海道医療大学 (株)アインホールディングス
P21032	部下の心理的安全性に上司のリーダーシップと部下の個人特性が与える影響	○寺口 司 藤野 秀則 後藤 学 彦野 賢 河合 学	(株)原子力安全システム研究所 福井県立大学 (株)原子力安全システム研究所 (株)原子力安全システム研究所 (株)原子力安全システム研究所
P21033	個人の情報処理スタイルに応じた社会規範ナッジの効果 感染症禍の外出行動に着目した検討	○岩谷 舟真 村本 由紀子	東京大学 東京大学
P21034	意見表明の可視化が討論に及ぼす影響 合意形成ゲーム「市民プロフィール」を用いた検討	○杉浦 淳吉 西田 公昭 吉川 肇子	慶應義塾大学 立正大学 慶應義塾大学
P21035	我々は先人からどう学ぶのか —情報探索場面における系列的な社会学習の検討—	○菅沼 秀蔵 内藤 碧 片平 健太郎 亀田 達也	東京大学 東京工業大学・日本学術振興会 産業技術総合研究所 東京大学
P21036	先制攻撃ゲームの意思決定メカニズムの検討② 社会選好を考慮したモデルの作成と実験データによる推定	○柏原 宗一郎 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学
P21037	リーダーのジェンダーと行動傾向がリーダーの評価に与える影響 —原因帰属の媒介効果に注目して—	○藤浪 遼太郎 田中 知恵	明治学院大学 明治学院大学
P21038	タイムラグ分析による職場の孤立・孤独感と離職意思の因果関係の検討 —職場における孤立・孤独化過程の検討(9)—	○松尾 藍 中村 准子 尾野 裕美 桃谷 裕子 松井 豊	北陸学院大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P21039	職場流動性は自己主張を促進するのか	○前田 友吾 伊藤 篤希 結城 雅樹	北海道大学・日本学術振興会 一橋大学・日本学術振興会 北海道大学
P21040	産業・組織場面におけるマインドセットと自律性	○秋保 亮太	大阪大学

ポスター発表P21 第1日

- P21041 定年期キャリア移行を通じた肯定的展望成立プロセスの探索
M-GTAを応用した「人生の再方向づけ」モデル化の試み ○柳本 英樹 成蹊大学
- P21042 学校生活における活動および対人関係の傾向と経験が大学生の就業に対する動機づけと自己効力感に与える影響 ○浅井 千秋 東海大学

P22ポスター発表

第1日(9月7日) 14:00~15:30

6号館4階403教室

在席責任時間 奇数番号: 14:00~14:45 偶数番号: 14:45~15:30

- | | | | |
|--------|--|-------------------------------------|------------------------------------|
| P22043 | 大学生のAdultism認知と保護者の関わりに対する不満との関連 | ○高橋 尚也 | 立正大学 |
| P22044 | 相互独立的・相互協調的な他者に対する日本人の選好
—Steiner課題で協働したい相手は誰か?— | ○比留間 圭輔
井上 裕香子
松本 良恵
清成 透子 | 青山学院大学
安田女子大学
淑徳大学
青山学院大学 |
| P22045 | 自己愛の多面的側面理解の有用性について
タイと日本の大学生の比較検討 | ○與久田 巖
太田 仁
平松 隆円 | 奈良大学
奈良大学
国際ファッション専門職大学 |
| P22046 | 自我関与度が新型コロナウイルス感染症予防の行動意図に及ぼす影響
—計画的行動理論を用いた検討— | ○樋口 満里奈 | お茶の水女子大学 |
| P22047 | 性的二次元創作物に対する規制の支持を促進する要因の検討
道徳判断にもとづく被害認知に注目して | ○田中 友理
向井 智哉
松尾 朗子 | 多摩大学
東京大学 |
| P22048 | カスタマーハラスメントの種類別対応方法に関する探索的検討
百貨店の販売員を対象とした質問紙調査より | ○池内 裕美
秋山 隆 | 関西大学
関西大学 |
| P22049 | Ambivalent Sexism Inventory (ASI) の日米比較
特異項目機能の観点から | ○宇井 美代子
古村 健太郎
小田切 紀子
松井 豊 | 玉川大学
弘前大学
東京国際大学
筑波大学 |
| P22050 | 性役割は男女の昇進意欲に影響を与えるか
—SESRA, 男らしさ、ジェンダー・ハラスメントに注目して— | ○櫻井 直子
三浦 麻子 | 大阪大学
大阪大学 |
| P22051 | 中高年・シニア世代のインターネット利用と社会的支援の関係 | ○北村 智
片桐 恵子
森 玲奈 | 東京経済大学
神戸大学
帝京大学 |
| P22052 | 犬と犯罪
東京都公開データを用いた分析 | ○石黒 格 | 立教大学 |
| P22053 | いじめ傍観行動における多元的無知(1)
—他者評価懸念による媒介効果の検討— | ○有倉 巳幸
神山 貴弥
稲垣 勉 | 鹿児島大学
同志社大学
京都外国語大学 |
| P22054 | いじめ傍観行動における多元的無知(2)
—学級集団構造による検討— | ○稲垣 勉
有倉 巳幸
神山 貴弥 | 京都外国語大学
鹿児島大学
同志社大学 |
| P22055 | 対人関係の質が中学生の不登校傾向に及ぼす影響 | ○大西 彩子
中島 義実
原田 克巳
尾関 美喜 | 甲南大学
福岡教育大学
金沢大学
岡山大学 |

ポスター発表P22 第1日

P22056	競争的な動機付けは「共有地の悲劇」を誘発するか	○鈴木 研悟 氏家 清和	筑波大学 筑波大学
P22057	気候変動政策が予測に与える効果の実験的測定	○秋山 知也 亀田 達也	東京大学 東京大学
P22058	健康信念・リテラシーに基づくセグメンテーションに対する放射線についての効果的なメッセージの比較検討	○平井 啓 藤野 遼平 山村 麻予 松村 悠子 三浦 麻子 八木 絵香 坪倉 正治 大竹 文雄	大阪大学 大阪大学 関西福祉科学大学・大阪大学 大阪大学 大阪大学 大阪大学 福島県立医科大学 大阪大学
P22059	コミットメントがマイボトル持参行動意図とデポジット容器利用行動意図に及ぼす影響	○前田 洋枝	南山大学
P22060	河川沿いにおけるポイ捨て防止社会実験	○中俣 友子 森 康浩 浦田 泰正 結城 心太朗 大沼 進	尚綱学院大学 宮城学院女子大学 北海道大学 北海道大学 北海道大学
P22061	消防団員との会話で防火を思い出す 消防団員とその身近な他者への調査	○竹村 幸祐 畑中 美穂 清水 裕士	滋賀大学 名城大学 関西学院大学
P22062	ふるさは遠きにありて思うもの？ 大学生の帰郷意図と地域間系資本に対するしがらみ意識	○岡本 卓也	信州大学

P23ポスター発表

第1日 (9月7日) 14:00 ~ 15:30

6号館4階408教室

在席責任時間 奇数番号 : 14:00 ~ 14:45 偶数番号 : 14:45 ~ 15:30

P23063	セルフコンパッションによる社会的排斥の悪影響の緩和 セルフコンパッション状態誘導法を用いた検討	○宮川 裕基	追手門学院大学
P23064	「自己呈示の内在化」再考 —自己欺瞞による代替説明可能性の検討—	○上田 臯介 山形 伸二	名古屋大学 名古屋大学
P23065	ファンの自己投入経験尺度の作成	○向居 暁 中島 未祐	県立広島大学 三次市役所
P23066	オンライン授業におけるカメラオンの心理的影響に関する研究 (2) 公的自己意識とカメラオン時の留意点の関係	○栗林 克匡	北星学園大学
P23067	認知負荷と社会的価値志向性が利他的罰に及ぼす影響	○島崎 敦也 礪部 智加衣	東京学芸大学 千葉大学
P23068	楽観性によるエピソード的未来思考の修飾 マルチボクセルパターン解析による検証	○柳澤 邦昭 中井 隆介 浅野 孝平 杉浦 仁美 嘉志摩 江身子 阿部 修士	神戸大学 京都大学 大阪総合保育大学 近畿大学 ラ・トローブ大学 京都大学
P23069	「小さな幸せ」の状況サンプリング —日常の中で感じる強度の弱い幸福の探索的検討—	○奥山 智天 宮本 百合	一橋大学 一橋大学
P23070	些細な親切の送り手が推測する受け手の感謝	○白木 優馬	愛知学院大学
P23071	協働規範メッセージが活動への興味に及ぼす影響	○竹橋 洋毅 豊沢 純子	奈良女子大学 大阪教育大学
P23072	感動や畏敬感情が罰の評価に及ぼす影響	○加藤 樹里 李 楊 山本 哲也 大平 英樹	金沢工業大学 名古屋大学 徳島大学 名古屋大学
P23073	年の瀬に人の感情はどのように変化するのか? 経験サンプリング法を用いた検討	○田村 楓 米谷 充史 加藤 樹里 柳澤 邦昭	神戸大学 神戸大学 金沢工業大学 神戸大学
P23074	共感するコスト 親密な他者に対する共感と向社会行動意図に与える影響	○高松 礼奈 徐 文臻 松尾 朗子	愛知学院大学 一橋大学 東京大学
P23075	シャーマンフロイデの抑制に及ぼす反省と懲罰の効果	○加藤 伸弥 和田 奈々子 泉 明宏	武蔵野大学 武蔵野大学 武蔵野大学
P23076	「推し」に対する支出と主観的幸福感 支出の動機に注目して	○宮崎 弦太 北原 美月 高橋 陽	学習院大学 学習院大学 学習院大学

ポスター発表P23 第1日

P23077	メディア利用と日本人意識 (9) 新型コロナウイルス情報への接触と関連政策に対する態度との関連性	○有馬 明恵 山下 玲子	東京女子大学 東京経済大学
P23078	メディアと日本人意識 (10) スポーツ情報への接触とスポーツ日本代表としての望ましさに対する意見との関連性	○山下 玲子 有馬 明恵	東京経済大学 東京女子大学
P23079	社会情報よりも規範情報の伝達を優先するのか? 伝達プロセスにおける内容バイアスの検討	○柿沼 舞花 安藤 寿康 中分 遥	慶應義塾大学 慶應義塾大学 安田女子大学
P23080	誰が危機コミュニケーションに影響力を与えているのか? 感染症危機におけるインフルエンサーの特定とその影響力の持続要因	○鄭 佳琪	一橋大学
P23081	インターネット上のコメント機能に関する研究 (1) 人はなぜコメントするのか	○中西 大輔 井川 純一	広島修道大学 東北学院大学
P23082	インターネット上のコメント機能に関する研究 (2) 人はなぜコメントを読むのか	○井川 純一 中西 大輔	東北学院大学 広島修道大学
P23083	高校生の「つながりっぱなし」の実態 (2) 心理的機能に基づく分類と友人への欲求との関連	○田島 祥 登本 洋子 堀田 龍也	東海大学 東京学芸大学 東北大学
P23084	ツイッターにおける匿名性が自己開示に及ぼす影響 個人情報の非公開性と社会的ネットワークの特徴	○張 琬瑜 坂元 章	東京大学 お茶の水女子大学
P23085	どのような人が「テレビを見ること」を好むのか NHK 放送文化研究所「日本人とテレビ」2010・2015年調査データより	○正木 誠子	日本大学
P23086	政治への信頼感を基盤とした政治参加理論の検証 政治信頼の二層構造に着目して	○大西 健太 稲葉 哲郎	一橋大学 一橋大学
P23087	日本人は権威主義国の非民主的ナラティブに説得されるか	○小林 哲郎 周 源 関 颯太 三浦 麻子	神戸大学・香港城市大学 神戸大学 神戸大学 大阪大学
P23088	保守政党支持への予測因としてのイデオロギーと心理変数 政治的洗練性による調整効果への着目	○中越 みずき 稲増 一憲	関西学院大学・日本学術振興会 関西学院大学
P23089	日本にとって脅威と知覚される国・地域に関するテキスト分析 —脅威のタイプと性別に関する探索的検討—	○李 禱飛 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
P23090	一般他者の選好の推測が政治的会話への抵抗感に与える影響	○岡田 葦生	関西学院大学・日本学術振興会
P23091	国益追求志向の規定因 JGSS-2008とJGSS-2017G/18Gデータの比較検討	○竹本 圭佑	藍野大学
P23092	非機能的とされる認知要因の機能的側面について 対人領域と達成領域における肯定的帰結に着目して	○野間 紘久 中島 健一郎	広島大学 広島大学

ポスター発表P23 第1日

- | | | | |
|--------|--|-------------------------|-------------------------|
| P23093 | 企業語学研修前の動機づけ・有能感と学習量の間連 | ○丹野 宏昭 | (株)WizWe |
| P23094 | 特別支援教育に対する賛否
障害者権利委員会による総括所見に対するYahoo!コメントの分析 | ○佐藤 剛介
前田 楓
橋本 博文 | 久留米大学
立教大学
大阪公立大学 |

在席責任時間 奇数番号: 14:00～14:45 偶数番号: 14:45～15:30

P24095	中高年者と若者の能力についての潜在的及び顕在的認知(1) 抑制に関わる個人差における加齢の影響	○工藤 恵理子 大江 朋子 森 津太子 田邊 美奈子	東京女子大学 帝京大学 放送大学 放送大学
P24096	中高年者と若者の能力についての潜在的及び顕在的認知(2) 抑制に関わる個人差と加齢の影響に焦点を当てた分析	○大江 朋子 工藤 恵理子 森 津太子 田邊 美奈子	帝京大学 東京女子大学 放送大学 放送大学
P24097	ギャンプルに介在する他者要因の影響 —経験と依存の程度から—	○村上 幸史	
P24098	選択肢の数が後悔に与える影響 選択式問題における選択肢の数と後悔との関連	○隅田 莉央 小宮 あすか	東京大学 広島大学
P24099	VR空間における他者の存在とその視線が向社会的行動に及ぼす影響 心理尺度への回答についての検討	○森 津太子 池田 まさみ 高比良 美詠子	放送大学 十文字学園女子大学 立正大学
P24100	資源不足プライミングと顔知覚 —日本におけるRodeheffer et al. (2012) のStudy 1の事前登録済追試—	○竹部 成崇 津村 健太 中島 健一郎	大妻女子大学 帝京大学 広島大学
P24101	自身の外見的評価がもたらす影響 日本人女性を対象としたモノ化理論の影響過程の検討	○森川 華帆	名古屋大学
P24102	無神経であるだけでも非難に値する 迷惑になると理解していない人物への否定的評価	○佐藤 洋大 唐沢 穰	名古屋大学・日本学術振興会 名古屋大学
P24103	ウェルビーイングの素朴概念の実験哲学的検討 —ウェルビーイング信念の構造と対人認知—	○苔米地 飛 鈴木 貴之	東京大学 東京大学
P24104	エリートステレオタイプにおける有能さを損なわずあたたかさを高める涙の検討	○植田 穂 加藤 樹里 田戸岡 好香	金沢工業大学 金沢工業大学 高崎経済大学
P24105	被害者に対する特性推論が共感・非難・支援意図に与える影響 —行為性の知覚を軸とした検討—	○橋本 剛明	東洋大学
P24106	外見に注目することが潜在的自己ステレオタイプ化に及ぼす効果	○朴 建映 沼崎 誠	東京都立大学 東京都立大学
P24107	外国人労働者の痛み耐性と精神的たくましさに関する認知バイアス	○田戸岡 好香 石井 国雄	高崎経済大学 東京家政大学
P24108	Websiteを利用したアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)の測定(1) —概要の報告—	○潮村 公弘	フェリス学院大学
P24109	相補的ステレオタイプの機能 国民性ステレオタイプを用いた検討	○佐久間 勲	文教大学

ポスター発表P24 第1日

P24110	好意的性差別発言が女子大学生の就職活動への意欲に及ぼす悪影響 —採用面接場面のシナリオを用いた検討—	○村田 光二	成城大学
P24111	社会的孤立者に対するスティグマ尺度の作成	○相羽 美幸 古村 健太郎 川上 直秋 菅原 大地 白鳥 裕貴 櫛引 夏歩 翠川 晴彦 太刀川 弘和	東洋学園大学 弘前大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学 弘前大学 筑波大学附属病院 筑波大学
P24112	「誰もが高齢者になる」事実と高齢者支援政策に対する重視度	○清水 佑輔 橋本 剛明 唐沢 かおり	東京大学・日本学術振興会 東洋大学 東京大学
P24113	年齢差別を受けた経験が主観的 well-being に与える影響： 性別と就労経験による違い	○竹内 真純 片桐 恵子	神戸大学・日本学術振興会 神戸大学
P24114	相対的剥奪が非就業者への自己責任論に及ぼす影響 —シナリオ刺激を用いた実験の追試—	○李 葦理 三浦 麻子	大阪大学 大阪大学
P24115	AIの感情能力と責任 米国サンプルでの追試	○膳場 百合子	早稲田大学
P24116	Covid-19 パンデミック下で行動免疫は変化したか 日本、中国、米国、英国、伊国での4年間のWeb調査から	○平石 界 三浦 麻子 中西 大輔 Andrea Ortolani 山縣 芽生 三船 恒裕 李 楊	慶應義塾大学 大阪大学 広島修道大学 筑波大学 同志社大学 高知工科大学 名古屋大学
P24117	態度は本当にリッカート尺度で測定できるのか？ —態度の真値が分かる状態での態度測定の妥当性検討—	○清水 裕士 柏原 宗一郎 下川 詩乃	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P24118	個人で正解が異なる態度形成において社会学習は生じるのか？	○下川 詩乃 柏原 宗一郎 清水 裕士	関西学院大学 関西学院大学 関西学院大学
P24119	ヒト-動物キメラに関する倫理的懸念の実証的検討	○谷辺 哲史 太田 紘史	早稲田大学 新潟大学
P24120	記述的規範認知に対するフレームの効果	○村上 史朗	奈良大学
P24121	スポーツ・運動に対する態度と健康行動との関係2 PC版シングルカテゴリー IATと階段利用行動	○大橋 恵 澤海 崇文 井梅 由美子 藤後 悦子	東京未来大学 流通経済大学 東京未来大学 東京未来大学
P24122	一般成人の動物への行動に対する是非と動物観	○伊藤 忠弘	学習院大学
P24123	異質な信念の寛容の判断に影響を及ぼす要因の検討 寛容動機,感情反応,行動志向性,社会的寛容性についての探索的検討	○大川 明李 北村 英哉	東洋大学 東洋大学

ECR企画発表

第1日(9月7日) 10:00～11:30 6号館4階409教室(ポスター発表)・
410教室(ライトニングトーク)

※こちらのECR企画の発表は、大会の公式発表ではございません。

ECR01	社会心理学と哲学の協働による道徳に関する課題の検討	○苫米地 飛	東京大学
ECR02	領域を超えた多数派同調バイアスの実証的検討	○棗田 みな美	広島修道大学
ECR03	個人は他者の協力に対する期待をどのように見積もるのか —モデルによる検討—	○三木 毬菜	関西学院大学
ECR04	感謝感情の帰結を広く考える	○山本 晶友	上智大学
ECR05	高齢者に対して若者が抱く態度の肯定化： 高齢者固有の特徴を踏まえたアプローチ	○清水 佑輔	東京大学
ECR06	自律的な学習者を育てる指導方略	○柿沼 亨祐	高知工科大学
ECR07	三者間独裁者ゲームの認知モデリング	○若井 大成	東京大学
ECR08	文化的自己観を踏まえた地域住民の教育活動支援への参加動機に関する検討	○奥田 麻依子	京都大学
ECR09	選択肢の数が後悔に与える影響	○隅田 莉央	東京大学
ECR10	移民に対する攻撃行動が生じる意思決定プロセスの解明	○柏原 宗一郎	関西学院大学
ECR11	共同体安定性および関係流動性と孤独感の関係	○奥山 智天	一橋大学
ECR12	個人で正解が異なる態度形成において社会学習は生じるのか？	○下川 詩乃	関西学院大学
ECR13	集団への同一視が起こる条件	○水野 景子	関西学院大学・日本学術振興会

発表者索引

発表者索引

(太数字は責任発表者)

A		天野 陽一	P21014	汪 明琛	P13067
Almeida, Igor	P12043	荒井 紀一郎	P14107	大井 彩衣	P21005
B		荒井 崇史	P12056 P21012	大江 朋子	P11008 P14096 P24095
Bi, Yue	P21003	有馬 明恵	P23077 P23078		P24096
Brunotte, Josh	O0602	安藤 香織	P12060	大川 明李	P24123
Bucher, Benoit	P11027	安藤 寿康	WS03 P23079	大久保 暢俊	P13080
C		い		大隅 尚広	O1004
Cardias-Gomes, Fabio	P12043	李 受珉	P13068	大藪 博記	P21027
Chang, Ya-Hui	P21010	飯干 諒祐	P11008 P14096	太田 紘史	P24119
G		井梅 由美子	P24121	太田 仁	P11010 P11011 P21013
Gao, Xingjian	O1001	井奥 智大	P12060		P22045
Goto, Nobuhiko	P14105	五十嵐 祐	P11001 P13077	大竹 文雄	P22058
H		五十嵐 真子	P21005	大坪 庸介	O0103 P13066
Hu, Anqi	O0602	井川 純一	P23081 P23082	大西 彩子	P22055
Huang, Xueqin	O1001	池内 裕美	P22048	大西 健太	P23086
K		池田 謙一	WS01	大西 仁	P11008
Kim, Nahyun	P11007	池田 浩	O0301 P11031	大沼 進	P11009 P11035 P12059
Kobayashi, Maiko	P11027	池田 まさみ	P24099		P12060 P22060
Koh, Alethea	P12043	伊崎 翼	P11013	大橋 恵	P24121
M		石井 国雄	P13083 P24107	大平 英樹	P23072
Mercier, Hugo	O0503	石井 圭	P11013	大森 弘子	P11010
Morishima, Yasunori	P14105	石井 敬子	O0103	小笠原 さくら	P11022
O		石井 辰典	SY01 O0704 P13071	岡田 葦生	P23090
Ortolani, Andrea	P24116	石川 真	P11017	岡田 陽介	P14110
P		石黒 格	P22052	岡本 真一郎	P13079
Park, Lora	P21010	泉 明宏	P23075	岡本 卓也	P22062
S		磯部 智加衣	P11024 P23067	小川 一美	P11005 P21016
Song, Boxuan	P14105	市川 芳治	O0405	小川 祐樹	O0401
T		市村 美帆	P11019	奥田 麻依子	ECR08
Taylor, Pamela	P12043	伊藤 篤希	P11032 P21039	奥山 智天	ECR11 P23069
W		伊藤 君男	P13079	小塩 真司	P13064
Watanabe, Katsumi	P11027	伊藤 健一	O0804	尾関 美喜	P22055
Y		伊藤 忠弘	P24122	小田切 紀子	P22049
Yakin, Syamil	P21010	稲垣 勉	WS02 P22053 P22054	小野 さくら	P21029
Yuki, Masaki	P21003	稲葉 哲郎	P23086	尾野 裕美	P21038
Z		稲増 一憲	P11036 P14101 P23088	小野島 昂洋	P13084
Zhang, Xiaodong	P14099	井上 佳奈	O0301	小野田 竜一	O0302
Zheng, Jiaqi	P14099	井上 心太	P21023 P21024	折茂 紗英	P11025
あ		井上 裕香子	P22044	温 若寒	P14097
相田 潤	P21008	今城 志保	O0501	か	
相羽 美幸	P21018 P24111	今田 奈緒	O0803	柿沼 亨祐	ECR06
青木 颯太郎	P21029	今田 大貴	O0303	柿沼 舞花	P23079
秋保 亮太	P21040	岩田 奈々	P21022	柿本 航哉	P12049
秋山 隆	P22048	岩谷 舟真	P21033	柿本 敏克	O0402
秋山 知也	P22057	う		柏原 宗一郎	ECR10 P21036 P24117
鮑戸 弘	O0201 O0202 O0203 O0204	吴 硕博	P11036		P24118
浅井 千秋	P21042	宇井 美代子	P22049	嘉志摩 江身子	P23068
浅野 孝平	P23068	植 穂奈美	P12059	柏本 幸俊	P11012
浅野 良輔	O0804 O1004	上島 淳史	P11029	片桐 恵子	P11007 P22051 P24113
浅原 亮太	P11013	上田 臯介	P23064	片平 健太郎	P21035
安達 啓介	O0801	上田 寛	P11033	加藤 樹里	P23072 P23073 P24104
安達 未来	O0801	植田 穂	P24104	加藤 伸弥	P23075
安部 主晃	P13068	氏家 清和	P22056	金森 万里子	P21008
阿部 晋吾	P12057 P21013	内川 義弘	P11025	金山 英莉花	P12060
阿部 夏希	O0803 P13068	内田 由紀子	P21008	金子 明日香	P13071
阿部 修士	P13068 P23068	梅谷 凌平	O0401	金子 智樹	P14101
		浦 佑大	P11025	金子 侑生	P12056
		浦田 泰正	P22060	金田 宗久	P13079
		お		金政 祐司	O0804
		王 詩頤	O0603	上坂 太輔	P11012

発表者索引

- 亀田 達也 O0503 P11030 P21025
 P21035 P22057
 唐沢 かおり P24112
 唐沢 穰 P24102
 河合 康介 P11009
 河合 学 P21032
 川上 直秋 O0703 P11015 P21018
 P24111
 川上 正浩 P13086 P13087
 川口 周一郎 **P11034**
 河口 陽菜 **O0604**
 川崎 直樹 P13071
 川嶋 伸佳 **P12052** P14098
 川端 祐一郎 O0102
 河村 悠太 P11034
 川本 哲也 WS03
 神原 歩 P12060
 神原 広平 P13068
 き
 菊水 健史 P11022
 岸 ひなた **P21007**
 北折 充隆 **P12050**
 北口 善明 P11008
 北原 美月 P23076
 北村 智 **P22051**
 北村 英哉 SY01 **O0104** O0603
 P12049 P13092 P24123
 吉川 肇子 P21034
 貴堂 雄太 **O0304**
 紀ノ定 保礼 **P21001** P21002
 木原 なな P12059
 金 惠璘 **O0503**
 木村 健太 P11013
 木村 昌紀 P11005 P21016
 清成 透子 P22044
 く
 日下部 春野 **P12044**
 櫛引 夏歩 P21018 P24111
 工藤 恵理子 P12053 **P24095** P24096
 工藤 大介 **P14102**
 熊谷 晋一郎 P13092
 栗林 克匡 **P23066**
 こ
 呉 長憶 **P12047**
 小池 はるか **P11023**
 黄 宇成 **O0102**
 黄 瑤 **O0802**
 神山 貴弥 P22053 P22054
 小島 誠也 **O0203**
 小城 英子 **P13086** P13087
 児玉 滢 P13083
 後藤 学 P21032
 小浜 駿 **P11003** P11004
 小林 哲郎 WS01 P13088 P14101
P23087
 小松 由佳 P14104
 小宮 あすか P24098
 古村 健太郎 O0804 **P21018** P22049
 P24111
 米谷 充史 **P13066** P23073
 小森 めぐみ **P13091**
 子安 ひかり **P11022**
 近藤 勢津子 **O0201** O0202
 さ
 齊藤 俊樹 **P13076**
 齋藤 知範 P12056
 齋藤 僚介 P11036
 境 聖 P13083
P21004
 酒井 拓人 P13086
 坂田 浩之 **P14108**
 坂巻 文音 P14100 P23084
 坂元 章 **P24109**
 佐久間 勲 **P22050**
 櫻井 直子 P12055
 佐々木 彩子 WS01
 笹原 和俊 P21005
 佐藤 奏 P13089 P13090 **P23094**
 佐藤 剛介 **O0204**
 佐藤 仁 P13063
 佐藤 広英 **P24102**
 佐藤 洋大 **O0504**
 佐野 千夏 **P13078**
 佐野 秀 P24121
 澤海 崇文 **P13064**
 澤田 奈々実
 し
 潮村 公弘 WS02 **P24108**
 敷島 千鶴 WS03
 繁樹 江里 **P11038**
 重松 潤 P13068
 志澤 翔太郎 **O0703** P11015
 品田 瑞穂 O0604 **O0903**
 柴田 侑秀 P11035 **P12059**
 柴山 璃音 P21031
 島崎 敦也 **P23067**
 島田 貴仁 WS04
 清水 陽香 P13068
 清水 裕士 P13088 P21023 P21024
 P21028 P21036 P22061
P24117 P24118
P21016
 志水 勇之進 ECR05 **P24112**
 清水 佑輔 ECR12 P24117 **P24118**
 下川 詩乃 WS03
 下司 忠大 P23087
 周 源 P23074
 徐 文臻 **P21017**
 周 玉慧 WS04
P23070
 白岩 祐子 P21018 P24111
 白木 優馬
 白鳥 裕貴
 す
 菅 さやか P21006
P21035
 菅沼 秀蔵 O0701
 菅原 育子 P21018 P24111
O0901
 菅原 大地 P12060 **P21034**
 杉浦 秀一 P13068 **P13082** P23068
 杉浦 淳吉 O1003
 杉浦 仁美 **P11032**
 厨子 直之
 鈴木 啓太
 鈴木 研悟 **P22056**
 鈴木 貴久 **O0401**
 鈴木 貴之 P24103
 栖原 恵海 P21005
 隅田 莉央 ECR09 **P24098**
 須山 巨基 **P13072**
 せ
 関 颯太 P23087
 泉水 清志 **P14103**
 膳場 百合子 **P24115**
 そ
 曹 蓮 **P11012**
 相馬 敏彦 O0802 O1002 P11020
 P11021
P11035 P12059
P12058
 相馬 ゆめ
 園田 美保
 た
 戴 澄葦 **O0402**
 高 史明 P14108
 高井 秀明 P11025
 高木 彩 **P12062**
 高木 英至 **O0502**
 高岸 治人 P12051 P13067
 高田 琢弘 **P13069**
 高野 了太 O0303
P22043
 高橋 尚也 P21021 P21029
 高橋 伸幸 P12051 P13067
 高橋 英彦 P11030 **P21025**
 高橋 茉優 P23076
 高橋 陽 P11018
 高原 龍二 P24099
 高比良 美詠子 **P23074**
 高松 礼奈 P11029
 瀧川 裕貴 **P24113**
 竹内 真純 O0304 O0504
 竹澤 正哲 P12062
 武田 美亜 **P23071**
 竹橋 洋毅 **P12053**
 竹原 菜々子 P14108 **P24100**
 竹部 成崇 P21008 **P22061**
 竹村 幸祐 **P23091**
 竹本 圭佑 P14100 **P23083**
 田島 祥 P21018 P24111
 太刀川 弘和 P11035
 辰巳 智行 O0303 **P21021** P21029
 館石 和香葉 P24104 **P24107**
 田戸岡 好香 **P11018**
 田中 健吾 P21037
 田中 知恵 **P22047**
 田中 友理 P24095 P24096
 田邊 美奈子 P11037
 谷口 淳一 **P24119**
 谷辺 哲史 **P21006**
 太幡 直也 **P11002**
 田丸 有生 **P23073**
 田村 楓 **O0601**
 田村 美恵 **P23093**
 丹野 宏昭
 ち
 張 琬瑜 **P23084**

発表者索引

- 趙 曉辰 **P13070**
 趙 承博 **P14098**
 張 清源 P13068
 陳 晗 **O0404**
 つ
 塚本 早織 **P13084**
 辻本 光英 **P11009** P11035 P12059
 坪倉 正治 P22058
 津村 健太 P24100
 て
 鄭 佳琪 **P23080**
 寺口 司 **P21032**
 と
 寶 雪 O0404 O0702
 藤後 悦子 P24121
 堂西 晴香 **O1003**
 徳岡 大 P11028
 苫米地 飛 **ECR01 P24103**
 戸谷 彰宏 **P13068**
 外谷 弦太 P12045
 外山 みどり **O0902**
 豊沢 純子 P23071
 鳥海 不二夫 O0401
 な
 内藤 碧 P21035
 中井 彩香 **P21026**
 中井 隆介 P13068 P23068
 長江 優希 **P12054**
 中尾 元 P12043
 中久喜 亜美 P21005
 中越 みずき **P23088**
 中澤 高師 P11035
 永澤 美保 P11022
 中島 健一郎 O0803 P11033 P13068
 P21001 P21002 P23092
 P24100
 中島 未祐 P23065
 中島 義実 P22055
 中田 星矢 **P12045**
 中西 大輔 P11028 P21030 **P23081**
 P23082 P24116
 永幡 幸司 P12058
 仲間 大輔 **P11026** P21027
 中俣 友子 **P22060**
 中村 准子 P21038
 中村 日海里 **P14095**
 中村 真 P13070
 中谷内 一也 P12061
 永吉 希久子 WS02
 中分 遥 P13072 P23079
 棗田 みな美 **ECR02 P21030**
 縄田 健悟 SY01 P11031
 に
 新井田 恵美 **P13073**
 新谷 優 **P21010**
 西田 公昭 WS04 P21034
 西辻 好花 **P13085**
 仁科 国之 P12051 P13067
 西村 太志 P11020 **P11021**
 西村 由貴子 O0803
- ぬ
 沼崎 誠 **P13081** P21026 P23089
 P24106
 P11003 **P11004**
 の
 沼田 真美
 野口 泰基 O0103
 野田 理世 **P13074**
 登本 洋子 P23083
 野間 紘久 **P23092**
 は
 朴 建映 P13081 **P24106**
 橋本 剛明 **P24105** P24112
 橋本 剛 **P21019**
 橋本 千裕 **P11020** P11021
 橋本 博文 P13089 **P13090** P21011
 P23094
 長谷川 孝治 P12053 **P13063** P13075
 畑中 美穂 **P13087** P22061
 蜂谷 優友 **P21012**
 花木 伸行 P11030
 馬場 健一 P11008
 浜田 隼 P21020
 濱田 龍 **P13075**
 早瀬 良 P13068
 原田 克巳 P22055
 ひ
 費 思怡 **P11015**
 樋口 匡貴 **P21005**
 樋口 満里奈 **P22046**
 彦野 賢 P21032
 平井 啓 **P22058**
 平石 界 **P24116**
 平島 太郎 **P11001** P11005
 平野 浩 WS01 **P14109**
 平松 隆円 P22045
 比留間 圭輔 **P22044**
 広田 すみれ WS04
 ふ
 福沢 愛 **O0701**
 福島 慎太郎 **P21008**
 藤井 聡 O0102
 藤井 達也 **P14106**
 藤井 美里 **O0403**
 藤家 研太 P11011
 藤川 真子 **P11028**
 藤島 喜嗣 P11002 P21022
 藤浪 遼太郎 **P21037**
 藤野 秀則 P21032
 藤野 遼平 P22058
 藤原 健 P11005 P21016
 古川 善也 **P13065** P21001 P21002
 古里 由香里 P13063
 古谷 嘉一郎 P11020 P11021 P13063
 ほ
 細野 文雄 O0402
 堀田 龍也 P23083
 堀田 結孝 **P21020**
 本郷 亜維子 **P11014**
 本田 菜々子 P13072
- ま
 前田 楓 **P13089** P13090 P23094
 前田 洋枝 **P22059**
 前田 洋光 **P14104** P21007
 前田 友吾 P12044 **P21039**
 正岡 亜季乃 P11020 P11021
 正木 郁太郎 **P11039**
 正木 誠子 **P23085**
 真島 理恵 **P21031**
 増田 貴彦 O0103
 真隅 暁 P12045
 松井 豊 P21038 P22049
 松尾 藍 **P21038**
 松尾 朗子 **P13092** P22047 P23074
 松尾 由美 **P14100**
 松崎 英吾 WS02
 松崎 圭佑 **P11008** P13081
 松永 昌宏 O0103
 松原 旭飛 **P11025**
 松村 悠子 P22058
 松本 良恵 P22044
 み
 三浦 麻子 SY01 P13085 **P13088**
 P14097 P22050 P22058
 P23087 P24114 P24116
 ECR03 **P21028**
 P21029
 水鳥 翔伍 O0201 **O0202**
 水野 一成 ECR13 O0303 P21023
 水野 景子 **P21024** P21028
 P21018 P24111
 P24116
 翠川 晴彦 P11037 **P23063**
 三船 恒裕 **P23076**
 宮川 裕基 **O1002**
 宮崎 弦太 P11008
 宮崎 美保 O0703 P13078 P21006
 宮田 純子 P23069
 宮本 聡介 P14101
 宮本 百合
 三輪 洋文
 む
 向居 暁 **P23065**
 向井 智哉 P22047
 村上 幸史 **P24097**
 村上 史朗 **P24120**
 村田 光二 **P24110**
 村本 由紀子 P11026 P21033
 村山 美穂 P12051 P13067
 も
 望月 要 P11008
 元吉 忠寛 **P12048**
 桃谷 裕子 P21038
 森 津太子 SY01 P11014 P24095
 P24096 **P24099**
 P22060
 森 康浩 O0503 **P11030**
 森 隆太郎 P22051
 森 玲奈 **P24101**
 森川 華帆 **P11037**
 森下 雄輔
 や
 八木 絵香 P22058

発表者索引

保高 徹生 P12059
 安野 智子 **O0405**
 八ッ塚 一郎 **O0904**
 柳澤 邦昭 P13068 P13082 **P23068**
 P23073
 柳本 英樹 **P21041**
 山 祐嗣 P12047
 山内 香奈 **P11006**
 山岡 あゆち **P12055**
 山岡 克式 P11008
 山形 伸二 P23064
 山縣 芽生 P24116
 山口 天音 WS03
 山口 奈緒美 P21012
 山口 裕幸 P11038
 山崎 梨花子 P13090
 山崎 悠大 P11012
 山下 倫実 **P21015**
 山下 美月 **P11031**
 山下 玲子 P23077 **P23078**
 山末 英典 O0103
 山村 麻予 P22058
 山本 晶友 ECR04 **O0101**
 山本 圭吾 P11010 P11011 **P21013**
 山本 佳祐 **P21011**
 山本 哲也 P23072
 山本 仁志 O0401
 山脇 岳志 WS01
 ゆ
 唯 なおみ P13092
 結城 心太朗 P22060
 結城 雅樹 P12044 P21039
 有倉 巳幸 **P22053** P22054
 よ
 與久田 巖 **P22045**
 横井 良典 **P12061**
 横田 晋大 P11028 P21030
 横山 智哉 **P14107**
 吉澤 寛之 **O1004**
 吉田 綾乃 **P21009**
 吉田 琢哉 O1004
 吉武 久美 P12050
 り
 李 禕飛 P13081 **P23089**
 李 述冰 **P12051**
 李 楊 P14102 P23072 P24116
 李 葎理 **P24114**
 林 萍萍 **P12046**
 れ
 廉 志顕 **O0702**
 わ
 若井 大成 ECR07 P21001 **P21002**
 和田 奈々子 P23075
 和田 桃子 **P14111**
 渡部 麻美 **P11016**
 渡邊 克巳 O0704 P13076
 渡邊 伸行 P21016
 綿村 英一郎 P12054

日本社会心理学会第 64 回大会 賛助団体 御芳名

【広告・展示】

株式会社ちとせプレス
株式会社講談社
株式会社北樹出版
株式会社創元社
株式会社誠信書房
株式会社北大路書房
福村出版株式会社
アイブリッジ株式会社
株式会社朝倉書店
株式会社有斐閣
株式会社テキスト
株式会社ナカニシヤ出版
株式会社風間書房

(敬称略)

大会を開催するにあたり、上記各企業・団体より多大なご支援をいただきました。
ここにその御芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2023 年 8 月
日本社会心理学会第 64 回大会準備委員会

JSSP 2023

日本社会心理学会

日本社会心理学会第 64 回大会 準備委員会

委員	杉谷 陽子(上智大学) 樋口 匡貴(上智大学, 準備委員長) 平石 界(慶應義塾大学) 藤島 喜嗣(昭和女子大学) 三浦 麻子(大阪大学) 山本 晶友(上智大学)
事務局	西村 和代(上智大学総合人間科学部樋口研究室)
ロゴデザイン	宮本 佳子(追手門学院大学)

日本社会心理学会第 64 回大会プログラム

発行日	2023 年 8 月 7 日
発行者	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学総合人間科学部心理学科社会心理学研究室内 日本社会心理学会第 64 回大会準備委員会